

平成 29 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力に努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

平成 29 年度事業報告

目 次

一	法人本部事業報告	1
二	事業経営	7
	1 障害福祉部門	7
	2 高齢福祉部門	29
	3 医療部門	67
	4 公益事業部門	78
	5 収益事業部門	81
三	理事会	82
四	評議員会	84
五	経営会議	85

一 法人本部事業報告

【はじめに】

今年度は社会福祉法の一部改正が全面施行された年であった。制度改革の内容は、①経営組織のガバナンス強化②事業運営の透明性向上③財務規律の強化④地域における公益的な取組を実施する責務⑤行政の関与の在り方⑥社会福祉施設職員等退職金手当共済制度の見直し、となっている。

この中で、経営組織のガバナンス強化については、経営の基本方針に係る議決機関となった評議員会を6月に開催し、平成28年度決算、社会福祉充実残額、新役員の選任、役員報酬等の支給の基準、会計監査人の選任について承認を受けた。そして理事会は業務執行に関する意思決定機関として位置づけられ、新役員選任後の理事会で渡邊理事長を互選し、業務執行理事を5名選任した。理事長及び業務執行理事は定期的に自己の職務の執行状況を報告する義務と責任が法律上規定され、年2回の報告を理事会で行うこととなった。

また会計監査人については、類家公認会計士事務所と契約を締結した。昨年度からの予備調査を経て、今年度の監査計画が示され、法人本部及び各事業所において監査を受けた。

事業運営の透明性については、財務諸表の公表等について法律上明記された。平成28年度の決算報告、事業報告等、所轄庁への現況報告書、定款、役員報酬基準等についてホームページで公表した。

財務規律の強化については、先に述べた通りいわゆる内部留保の明確化が必要となり、社会福祉事業等へ計画的に再投資していくために、純資産から事業継続に必要な財産の額を控除し、福祉サービスに再投下可能な財産額「社会福祉充実残額」を算出した。算出結果は監事が精査し、発生しない結果となった。

また、今年度より新たな法人の中期経営計画（平成29年度～31年度）を策定し進めていくこととなった。本計画からはこれまでの法人を取り巻く全体構想に加えて、各部門の具体的な計画を記載することとした。その中で法人全体の重点課題を①サービスの質の向上②地域における公益的な取り組みの推進③信頼と協力を得るための情報発信④人材の確保に向けた取り組みの強化⑤組織統治（ガバナンス）の確立の5項目に分類して設定し取り組むこととした。

このうち「サービスの質の向上」では桜町病院で診断書等の取扱の一元化・診断書等作成の迅速化を目的として、作成支援システムを導入し診断書取り扱い窓口を設置した。

「地域における公益的な取り組みの推進」では、桜町病院が中心となり市民講座を開催した。またきた地域包括支援センターが地元のけやき通り商店街を旗振り役として「みんなの安心ささえ愛ネット」を立ち上げた。

「信頼と協力を得るための情報発信」では、所轄庁への提出義務となっている現況報告書や財務開示システムによる法人の各種情報を整備し、ホームページにリンクさせて発信した。

「人材の確保に向けた取り組みの強化」では、法人全体で人材確保のための取り組みに着手すべく、職員採用等に関する法人・施設の魅力を発信していくことを支援している外部

団体の説明会を開催した。

「組織統治（ガバナンス）の確立」では、改正法により内部管理体制の取り組みに関する基本方針を理事会で決定することとなり、その方針に基づき規程類の整備に着手することとし、内部統制を強化するための内部監査の実施に向けた準備をしていくこととなった。

地域包括ケアシステムの構築について、これまで以上に法人内の連携が必要という認識のもと、経営会議で具体的な連携イメージを作り、そこに各事業所がどのように関わっていくかを構想し、現場レベルへ落とし込んでいくという作業にも着手した。次年度にはより深い考えを巡らし協議していくことになると思う。

【事業報告】

- 1 昨年度選任された新評議員による評議員会において、新理事 8 名、新監事2名が選出された。その中から業務執行理事5名を選任した。
- 2 会計監査人による初めての会計監査を実施した。
- 3 所轄庁への現況報告書を整備した。また財務規律の強化として作成義務のある財務諸表等電子開示システムに関する各種データを作成し、社会福祉充実残額を算出した。

4 法人機能の強化

(1)サービスの質の向上

(ア) 定款によって定められた「運営協議会」の第一回を平成 29 年 7 月に、第二回を平成 30 年 1 月に開催した。利用者家族や民生委員から構成される協議会で、要望や意見を聴く機会となり今後のサービスに反映していくこととなった。

開催日:第一回 平成 29 年 7 月 31 日(月)14:00-15:30

第二回 平成 30 年 1 月 31 日(月)14:00-15:30

(イ) 法人内の全事業所を対象とした研修会を開催した。

○開催日:平成 29 年 8 月 3 日(木)18:00-20:00

場 所:本館戸塚ホール

研修名:問題解決の考え方と方法

講 師:株式会社ウィ 代表 秋山信悟氏

参加者:桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、
本町高齢者在宅サービスセンター、富士聖ヨハネ学園、障害福祉部
門東京事業所から計 39 名

○開催日:平成 29 年 10 月 24 日(火)15:00-16:30

場 所:本館戸塚ホール

研修名:食支援 ～最近の動向～

講 師:桜町病院 医長 大井裕子医師

参加者:桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、
本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門山梨事業所、
障害福祉部門東京事業所から計 44 名

○開催日:平成 30 年 1 月 17 日(水)18:00-20:00

場 所:本館戸塚ホール

研修名:福祉人材育成

講 師:社会福祉法人品川総合福祉センター 理事 加藤久明氏

参加者:桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者
在宅サービスセンター、障害福祉部門山梨事業所、障害福祉部門東京
事業所から計 41 名

○開催日:平成 30 年 2 月 5 日(月)18:00-20:00

場 所:桜町高齢者在宅サービスセンター デイルーム

研修名:持ち上げない介護

講 師:日本社会福祉事業大学 社会福祉学部 特任教授 佐々木由恵氏

参加者:桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセン
ター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所
から計 28 名

○開催日:平成 30 年 2 月 15 日(木)18:00-20:00

場 所:本館戸塚ホール

研修名:ハラスメントの防止 ～心理学の観点から～

講 師:公益財団法人東京都人権啓発センター 講師 小原俊治氏

参加者:桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセン
ター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門山梨事業所、
障害福祉部門東京事業所から計 62 名

○開催日:平成 30 年 2 月 22 日(木)18:00-20:00

場 所:本館戸塚ホール

研修名:組織の一員としての基礎知識

講 師:都立職業能力開発センター 講師 吾妻正徳氏

参加者:桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセン
ター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門山梨事業所、
障害福祉部門東京事業所から計 56 名

(2)地域における公益的な取組の推進

(ア)関係団体(東京都社会福祉協議会、小金井市社会福祉協議会)が主催する連 絡会等へ
参加し、法人間の連携や広域的な取り組みに協力した。

○開催日:平成 29 年 7 月 27 日(木)10:00-11:30

場 所:小金井市社会福祉協議会会議室

会議名:平成 29 年度第 1 回小金井市社会福祉法人連絡会

主 催:小金井市社会福祉協議会

○開催日:平成 29 年 9 月 12 日(火)13:30-17:00

場 所:あいおいニッセイ同和損保新宿ビル地下ホール

会議名:「社会福祉法人における地域公益活動」実践報告会

主 催:東京都地域公益活動推進協議会

発 表:様々な福祉ニーズを抱える方へのフィッティングサポート

発表者:本町高齢者在宅サービスセンター長 山極愛郎

○開催日:平成 29 年 9 月 14 日(木)～15 日(金)

場 所:四日市市文化会館

会議名:第36回全国社会福祉法人経営者大会

主 催:全国社会福祉法人経営者協議会

○開催日:平成29年11月16日(木)～17日(金)

場 所:浅草ビューホテル

会議名:第28回全国福祉医療施設大会

主 催:全国福祉医療施設協議会

○開催日:平成29年11月27日(月)10:00～11:00

場 所:小金井市社会福祉協議会会議室

会議名:平成29年度小金井市社会福祉法人連絡会研修会

主 催:小金井市社会福祉協議会

○開催日:平成30年2月8日(木)14:00～15:30

場 所:小金井市社会福祉協議会会議室

会議名:平成29年度第2回小金井市社会福祉法人連絡会

主 催:小金井市社会福祉協議会

○開催日:平成30年2月27日(火)13:20～17:00

場 所:あいおいニッセイ同和損保新宿ビル地下ホール

会議名:明日から取り組める公益的活動実践発表会

主 催:東京都社会福祉協議会

発 表:まなざし「生後6か月までの母子を対象とした子育て支援の取組」

発表者:桜町病院 院長 小林宗光

(3)信頼と協力を得るための情報発信

(ア)平成29年度事業計画及び予算、平成28年度事業報告及び決算を法人のホームページへ掲載した。また各事業活動、提供するサービスの内容、公益的な取り組みの実施状況等について、広報誌等を作成し利用者や家族、地域住民に発信した。

(4)人材の確保に向けた取り組みの強化

(ア)平成29年度第1回福祉業界合同採用試験に参加した。

開催日:平成29年6月18日(日)

場 所:ベルサール渋谷

主 催:東京都福祉人材センター

(イ)「職場紹介」の開催

法人内の交流を目的として「職場紹介」の機会を設けた。これは他事業所がどんな仕事をしているのか、また自身が所属する事業所の各部署などがどんな業務をやっているのか等を紹介することで、職員がより深く法人のことを知ることが狙いである。

○日 時:平成29年12月6日(水)18:00～19:00

場 所:本館戸塚ホール

発表内容:障害福祉部門山梨地区における相談支援事業について

(障害者等の人権、高齢化、医療等々の課題と取り組み)

発表者 :山梨県相談支援体制整備事業 富士東部圏域マネージャー

平賀久仁

参加者数:33名

(5)組織統治(ガバナンス)の確立

(ア)改正法に伴い、一定規模以上の法人(会計監査人設置法人)について、内部管理体制の整備について基本方針を理事会で策定することが義務付けられ、平成29年6月5日付第300回理事会においてその基本方針を策定した。さらにその基本方針に基づいて体制を整備するための規程類の制定や内部統制の確立に向けた内部監査体制の整備について外部機関の協力を得ながら取り組んだ。

(イ) 法人全体のコンプライアンス研修(Eラーニング)を実施した。

(ウ) 社会福祉法人会計基準が統一されたことによる法人全体の経理に関する説明会を開催した。

日 時:平成29年7月5日(水)14:00~15:30

場 所:本館戸塚ホール

出席者:各会計責任者・各経理担当者

5 事業運営に沿った規程類の整備について

改正法に伴い経理規程を改訂した。

また、桜町病院の職員就業規程、高齢福祉部門及び障害福祉部門の就業規則、職員給与規程、組織規程等について改訂した。

6 職員交流を目的としたレクリエーションを実施した。

○レク名:本栖湖竜ヶ岳ハイキング

開催日:平成29年11月3日(金)

参加者:職員、ご家族含め18名

○レク名:第4回理事長杯争奪ボーリング大会

開催日:平成29年11月19日(日)

参加者:24名

7 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアホームさくら及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。

その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

8 庶務・登記・監査事項等

定款変更認可申請

(ア) 平成29年7月31日認可

認可内容:事業内容変更に伴う事業所名の変更

2) 登記

登記年月日	登記内容
平成29年6月21日	資産の総額(5,617,766,990円)
平成29年6月21日	役員に関する事項(理事長 渡邊元子)

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 29 年 5 月 18 日	決算監事監査	監事
平成 29 年 7 月 21 日	指定訪問看護ステーション に対する実地指導	東京都福祉保健局指導 監査部指導第三課介護 期間指導担当
平成 29 年 11 月 28 日	社会福祉法人実地検査	東京都福祉保健局指導 監査部指導第一課
平成 29 年 11 月 30 日	障害福祉サービス事業所 (小金井聖ヨハネ支援センタ ー)実地検査	東京都福祉保健局指導 監査部指導第一課
平成 30 年 1 月 26 日	介護予防支援事業所(小金 井きた地域包括支援センタ ー)実地調査	小金井市(福祉保健部 介護福祉課介護保険 係)
平成 30 年 1 月 18 日	施設基準等に係る適時調査 (桜町病院)	関東信越厚生局
平成 29 年 11 月 7 日	平成29年度指定障害福祉 サービス事業者等の実地指 導(富士聖ヨハネ学園)	山梨県福祉保健部障害 福祉課
平成 29 年 11 月 15 日	平成29年度診療所立入検 査(富士聖ヨハネ学園診療 所)	山梨県富士・東部保健 福祉事務所

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 29 年 5 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用 支援機構
平成 29 年 6 月	社会福祉法人調査票 現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指 導調整課指導調整係
平成 29 年 7 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構

二 事業経営

1. 障害福祉部門

【 総 括 】

組織統合について

障害福祉部門は平成 29 年度組織統合を行った。平成 22 年に富士聖ヨハネ学園の東京事業課を分立して障害者地域生活支援センターとし、山梨と東京でそれぞれに事業運営を行ってきたところであるが、社会福祉法人改革等の流れの中で法人内の体制整備に向けて障害福祉部門として組織を再統合することにした。事業は「山梨事業所」「東京事業所」の 2 拠点でその下に「施設支援事業部」「富士北麓支援事業部」「小金井支援事業部」「清瀬支援事業部」の 4 部門を置き、管理者層で部門会議を構成して意思決定機関とした。このことにより人材や情報等の流れがスムーズになるとともに、法人の障害福祉部門としてスケールメリットを活かしながら今後の方向性を検討・推進する体制が整った。初年度は諸規定等の一本化に取り組むとともに現状や課題の共有化をはかり次年度以降に一定の道筋をつけたが、取り組む課題は多く引き続き検討していく。

中期経営計画について

法人理念に則した経営のために、利用率の向上と利用者のニーズに向き合った支援体制の構築に取り組んだが、障害福祉サービスの利用を希望する方は多く、受け入れ体制の整備からすぐに利用できないケースもみられた。重度化・高齢化の利用者の受け入れは年々増えているが、それに対応する人材や環境整備等、地域での暮らしを支えるための取り組みが重要課題である。

平成 29 年度、部門では重度化・高齢化に対応したグループホームの開設に向けて準備を進めてきたが、平成 30 年度から障害のある人が地域の中で暮らし続けていくための仕組みが法制化されるため、新制度とのすりあわせが必要となり詳細の検討を進めている。部門として長年培ってきた重度・高齢への支援とあきらめない支援指針を継続しつつ今後も取り組んでいきたい。

一方でそれらを支える人材の確保と育成も急務であり、人材確保については外部業者委託を行うと共に人材育成の体制整備を検討し、次年度から実施する目処をつけたところである。

報酬改定と制度改正の狭間で不確定要素も多く、具体的な取り組みについては次年度の制度改正を見据えて法人内他部門との連携を図りながら理事会・経営会議等への提案を行っていく。

財務状況について

障害福祉部門は、東京都民及び山梨県民向けの事業を行っており、事業内容も入所・通所施設から相談支援まで幅広い。性質上採算が見合わない事業もあるが、障害者福祉の変遷や聖ヨハネ会の実践から見ると、障害者支援を行うためにはどの事業も必要不可欠であるとともに相互の協働・補完関係にあることから部門全体で取り組むことを指針としている。また歴史的にみても山梨・東京の事業を利用している利用者も多く一体化は必然の流れであると思われる。よって事業ごとの収支に差が出ているものの部門全体としては黒字決算となっていることで障害福祉部門の事業が成り立っていると考えられる。

平成 30 年度は 3 年に一度の報酬改定が行われるが、社会福祉法人等に対する社会の見方が厳しくなる中で報酬の仕組みが大きく変わることになる。合わせて制度改正も行われるため、その動向に注視して対応していきたい。

拠点区分名：富士聖ヨハネ学園

I 事業所名	：富士聖ヨハネ学園
サービス区分名	：施設入所支援事業・短期入所事業・生活介護事業

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29 度)	利用率 (H28 度)	利用率 (H27 度)
生活介護 H29.4～	154 人	144 人	143 人	93.0%	92.8%	90.9%
施設入所支援 H29.4～	122 人	120 人	120 人	98.6%	98.3%	95.3%
短期入所 H29.4～	6 人	—	4 人	62.0%	57.2%	61.5%

平均年齢 49.6 歳（最高 80 歳、最低 18 歳）

男女比率 75 名（男子）： 68 名（女子） 52：48

平均在所期間 25.7 年（最長 45.7 年）

年間入所 3 名 年間退所 2 名

【職 員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1		1							1		1
副園長	1		1							1		1
生活支援員	70	26	96	2	6	3	1	5	7	66	31	97
事務員	4		4	1	1					4		4
栄養士・調理員	5	9	14	1	1	1	2	2	3	5	8	13
設備等	2	4	6			1	1	1	1	2	4	6
医師		1	1								1	1
看護師	1	3	4	4	3		3	4	6	2		2
医療事務員		1	1			1	1	1	1		1	1
合計	84	44	128	8	11	6	8	13	18	81	45	126

*非正規職員については、拠点間異動を含むため合計数値が一致しない。

【施設運営状況】

学園では、高齢知的障害の利用者と自閉症スペクトラムの利用者の豊かな生活を支援する重点として日々の生活や月の行事、季節の行事など「豊かな時間」（生活）を支援することに取り組んでいる。

また、入所を希望する方も多く、ニーズに応えられるように入退所検討委員会を設け対応している。年度の途中には、入所の利用率が、100%を達成したが、2人がお亡くなりになり、1人が清瀬のグループホームに移動されたため、年度末より募集をしている。

職員の確保は、前年からの大きな課題になっている。職員の確保ができないために支援に滞りが生じないように、採用への取り組みは最優先課題になっている。

【利用者支援状況】

虐待防止、権利擁護の要である意思決定を支える取り組みを実施している。利用者、保護者からの日々の相談、要望、苦情等を、ひとりひとりの職員が真摯に受け止め対応することを主眼にして取り組み、対応記録を取りながら職員間での共有化を進めている。

また、障害特性に即した支援力を育成するため、支援職員全員が、強度行動障害者支援者養成研修を受講することに取り組んでいる。

【施設整備状況】

学園の改築が終わり、改築後の建物も運用も効率的になされている。2年間運用して、建物内の冬場の乾燥が課題となってきたので、改善に取り組んでいきたい。また学園敷地内の建物の活用と整備が課題であり、検討をすすめていきたい。

【教育研修】

日時	研修名	会場	出席者
4月3日	新任職員研修（障害福祉部門）	法人本部等	5名
4月7日	新任職員研修(法人)	学園	5名
4月30日	地域移行の理解のための研修	学園	60名
5月12日	第1回山梨県障害福祉従事者基礎研修	県防災会館	2名
5月16日～17日	第1回強度行動障害者支援者養成研修基礎	青少年センター	2名
5月12日	第2回山梨県障害福祉従事者基礎研修	山梨市役所	1名
5月30日～31日	第1回強度行動障害者支援者養成研修実践	青少年センター	2名
6月5日	AED研修（応急手当）	学園	15名
6月12日	新任職員研修（薬の管理）	学園	2名
6月23日～24日	東社協 新任職員研修	いこいの村	2名
6月26日～27日	全国カトリック施設研修会	熊本	1名
7月4日～5日	平成29年度全国知的障害者施設長研修	東京国際フォーラム	2名
7月8日	寝起き・移乗動作の介助法の研修	学園	32名
7月13日～14日	第48回関東地区知的障害者福祉職員研修	東京ベイ幕張ホール	3名
7月14日	権利擁護研修	青少年センター	3名
8月2日	給食従事者研修（食事、衛生）	昭和大学	1名

8月3日	平成29年度福祉サービス苦情解決研修	山梨県自治会館	1名
8月3日	法人研修 チームワークで課題解決	学園	17名
8月22日～23日	第2回強度行動障害者支援者養成研修基礎	青少年センター	2名
9月8日	口腔衛生の研修会	学園	18名
9月13日 ～11月12日	法人研修ハラスメント研修 eラーニング	法人 eラーニング	全職員
9月17日	第23回摂食嚥下リハビリテーション研修会	幕張メッセ	1名
9月26日	山梨県強度行動障害者支援者フォロー研修	青少年センター	1名
9月27日～29日	第55回全国知的障害者福祉関係職員研修会	名古屋国際会場	2名
10月2日	口腔衛生の研修会	学園	18名
10月24日	職場の感染症対策	産業保健センター	1名
10月24日	法人研修 「食べる」摂食嚥下の理解	学園	6名
10月26日	関東地区知的障害種別研修会	立川グランドホテル	6名
11月1日～2日	山梨県サービス管理責任者養成研修	びゅあ総合	2名
11月7日～8日	第3回強度行動障害者支援者養成研修	青少年センター	3名
11月18日	山梨フォーラム	山梨学院短期大学	2名
11月24日	AED研修 (2)	学園	14名
11月27日	平成29年度福祉サービス苦情解決研修2	山梨自治会館	1名
12月1日	虐待防止研修	山梨県立文学館	1名
12月1日	口腔衛生研修(2)	学園	20名
12月2日	口腔衛生研修(3)	学園	60名
12月4日	感染予防研修	学園	20名
12月5日～6日	小金井研修	聖霊修道院マリア館	6名
12月6日	法人研修 職場紹介	学園	45名
12月6日	知的障害者 管理者・監督者 研修	青少年センター	6名
12月12日	山梨県虐待防止・権利擁護研修 支援	びゅあ総合	4名
12月15日	感染症予防研修(2)	学園	20名
12月29日	東社協 新任職員研修(2)	研究社	2名
1月17日	法人研修 福祉人材育成	学園	28名
2月5日	山梨県虐待防止・権利擁護研修 管理・監督	びゅあ総合	4名
2月6日～7日	第4回強度行動障害者支援者養成研修 基礎	青少年センター	6名
2月10日	東社協 高齢知的障害者の支援	福祉プラザ江東区	1名
2月13日	東社協 新任職員研修(3)	研究社	2名
2月15日	法人研修 ハラスメント	学園	42名
2月17日	職員育成研修(得意を活かす)	敷島公民館	3名
2月20日～21日	第4回強度行動障害者支援者養成研修 実践	青少年センター	20名
2月22日	法人研修 組織の一員としての基礎知識	学園	20名
2月24日	5法人合同共催研修 福祉人材	山梨文学館	21名

※その他学園全体において計60回の研修 延べ外部研修 87名、園内研修 587名参加

※eラーニング 法人研修 コンプライアンス等

Ⅱ 事業所名 ：富士聖ヨハネ学園 診療所

【施設運営状況】

学園利用者の健康診断及び健康管理に重点的に取り組んだ。診療所の基本業務と看護にかかわる相談に取り組んだ。

また、診療所の看護師の退職にともない、体制の再構築と看護師の採用に取り組んだ。

【利用者支援状況】

日々の健康観察等により利用者が適切な医療支援を受けることができるように取り組んだ。

【施設整備状況】

電子請求の運用を開始し、電子カルテの課題も明確になってきている。

拠点区分名：富士北麓聖ヨハネ支援センター

Ⅲ 事業所名：富士北麓聖ヨハネ支援センター
サービス区分名：生活介護事業・就労継続支援B型事業・短期入所事業

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
生活介護	35人	31人	25.8人	73.6%	55.2%	48.7%
就労継続支援B型	15人	11人	9.9人	66.3%	63.7%	67.6%
短期入所	3人	—	2.4人	80.0%	80.1%	65.4%

平均年齢 34.1歳（最高63歳 最低19歳）

男女比率 25名（男子）：17名（女子）

平均在所期間 2.9年（最長4年）

年間入所 9名 年間退所 0名

【職 員】

	平成29年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成30年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	10	5	15	2	2	4	1	6	3	10	8	18
看護師	2		2		1				1	1		1
調理員		1	1								1	1
合計	14	6	20	2	3	4	1	6	4	13	9	22

【施設運営状況】

開設から4年目を迎え、生活介護の契約者数、利用率共に増えている。但し利用者の重度化もまた著しく契約者31名中10名（32.3%）が車椅子利用者である。次年度は筋ジストロフィ患者の利用希望があり、また、医療的ケアの必要な支援学校生の実習依頼等、地域で重症心身障害者を受け入れる施設が少ないことを思うと、そのような方達を受け入れられる支援体制の整備が当事業所には求められているといえよう。また、車椅子利用者が増えることにより活動スペースの確保が課題となっており、利用希望者の増加に対応するための定員増も含めて、今後の施設像の検討に部門全体で取り組む必要性を感じている。

就労継続支援B型の利用者数の停滞は、今年度圏域に2つの就労継続支援B型事業所が開設し、次年度も2つの事業所が開設予定である等、圏域内の事業所飽和状態によるものと思われる（圏域の全ての就労系事業所が定員割れをおこしている）。その数多い事業所の中でも当事業

所が選ばれるよう作業の充実、就職への実績づくりに取り組んでいかなければならない。

【利用者支援状況】

就労継続支援B型の利用者1名が、ヨハネ学園時代から9年近くの支援の後富士吉田市内のスーパーマーケットの食品加工部署に就職が決まった。また、他の事業所では毎日通うことが出来なかった利用者が1年間のセンター通いの後、次年度1年間甲府の「就業支援センター」に通うことが決まった。

生活介護の若い利用者積極的に体を使う活動を提供すると共に、重症心身障害のある利用者に対しては看護師を中心とした機能訓練の充実を図った。

【施設整備状況】

- ・車椅子利用者用送迎車購入
- ・防災備蓄備品購入

【教育研修】

日 時	研 修 名	会 場	出席者
5月12日	山梨県障害福祉従事者基研修	山梨県防災新館	1名
6月27日～28日	日本トリック児童施設全国大会	熊本ホテルキャッスル	2名
6月19日	発達障害のある人の将来を見据えた支援	県立富士ふれあいセンター	1名
7月12日	身近なものを使ってレクリエーション	同上	1名
6月24日	公開学習会「みんなの学校」映画とシンポ	忍野村ふれあいホール	20名
9月1日	医療ケアが必要な重症心身障害者の地域生活を支える	飯田橋研究社英語センター	1名
2月1日	重症心身障害児者の支援者研修会	あけぼの医療福祉センター	2名
2月5日	山梨県障害者虐待防止・権利擁護研修会	びゅあ総合	1名
2月16日	山梨県障害者自立支援協議会就労支援部会	県立大学飯田キャンパス	1名
3月2日	重症心身障害児者の支援者研修会	国立甲府病院	1名

IV 事業所名	: 河口湖聖ヨハネケアービレッジ
	明見聖ヨハネケアービレッジ
	城山聖ヨハネケアービレッジ
	忍野聖ヨハネケアービレッジ
サービス区分名	: 共同生活援助 (介護サービス包括型)

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29 度)	利用率 (H28 度)	利用率 (H27 度)
河口湖聖ヨハネ ケアービレッジ	10 人	10 人	9.8 人	98.0%	92.6%	91.6%
明見聖ヨハネ ケアービレッジ	7 人	7 人	6.8 人	96.7%	98.2%	97.8%
城山聖ヨハネ ケアービレッジ	7 人	6 人	6.0 人	86.8%	99.9%	97.4%
忍野聖ヨハネ ケアービレッジ	7 人	7 人	7.0 人	99.7%	99.7%	99.8%

平均年齢 52 歳 (最高 70 歳、最低 24 歳)

男女比率 14 名 (男性) : 16 名 (女性)

平均在所期間 6.8 年 (最長 10 年)

年間入所 0 名 年間退所 0 名

【職 員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	6	11	17	1		1		2		7	12	19
合計	8	11	19	1		1		2		9	12	21

【施設運営状況】

河口湖CVは宿直職員の寝室や物置が無いために1室をスタッフルームとした。そのことにより定員を11名(サテライト含む)から10名に減員した。

城山CVより河口湖CVに1名異動した後、城山CVの定員が埋まらなかった。

居宅課の配置職員数が少ないために、富士北麓支援事業部通所課職員の応援により宿直者の確保を行っている状況。

富士北麓支援事業部総体(通所施設及びグループホーム)としての嘱託医を「ことぶき診療所」に依頼したことにより、CV利用者の医療支援の体制をセンター医務室を中心として構築した。

【利用者支援状況】

前述したように医療支援体制を整えたことにより、利用者の発病等に対し専門的な見地からのアドバイス、指示をスピーディーに受けられるようになった。

河口湖C Vサテライトに入居している利用者がスーパーマーケットの食品加工部署にて就職が決まった。また、河口湖C Vの男性入居者が次年度1年間甲府の「就業支援センター」に通うことが決まった。

【施設整備状況】

- ・城山C V、河口湖C V、明見C V共にスプリンクラーが施主の負担で設置された（但し家賃の値上げにて対応）
- ・平成30年度4月のC V改編に向けて明見C Vの居室の改装工事を法人負担で行った。
- ・防災備蓄用品を購入した。

【教育研修】

日 時	研 修 名	会 場	出席者
9月1日	医療ケアの必要な重症心身障害者の地域生活を支える	飯田橋研究社英語センター	2名

V 事業所名 : さぼーとヨハネ
 サービス区分名 : 相談支援事業

【職 員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
相談支援 専門員	3		3	1						4		4
合計	4		4	1				1		5		5

【施設運営状況】

今年度「基幹相談支援センター」が開設され係長1名が出向して働いている。それに伴い、当事業所が抱えていたケースが「基幹相談支援センター」に移行され、当事業所はかなり身軽になった。しかしながら当該課長が山梨県の要請により「圏域マネージャー」に就任したことにより、人手不足の解消には至っておらず、相談支援員の確保が急務である。

【利用者支援状況】

強度の行動障害のある知的障害児（支援学校高等部3年生の生徒）の支援を基幹相談支援センター、保護者、支援学校、短期入所事業所、病院と連携しながら行い、今春卒業式を迎えることになった。

【施設整備状況】

- ・PCソフト「相談支援システム福祉見聞録」導入

拠点区分名：障害福祉部門 小金井

VI 事業所名：小金井聖ヨハネ支援センター
サービス区分名：生活介護事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
生活介護	22人	16人	14.3人	65.1%	49.5%	29.9%
就労移行	10人	12人	9.6人	96.2%	113.7%	60.9%
就労継続B型	20人	18人	15.1人	73.9%	68.0%	59.6%

平均年齢 28.6歳（最高62歳 最低19歳） 男女比率 26名（男子）：20名（女子）
平均在所期間 2.8年（最長6年5か月） 年間入所 6名 年間退所 1名

【職 員】

	平成29年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成30年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1					1		1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	6	15	21	1		1	1	2	1	7	15	22
事務員	2	1	3	1				1		3	1	4
栄養士・調理員	1	1	2							1	1	2
医師		1	1								1	1
看護師		1	1			1		1	1		2	2
合計	11	19	30	2		2	1	7	4	13	20	33

【施設運営状況】

小金井聖ヨハネ支援センターは平成27年5月に開所した定員52名の多機能型施設である。開所から3年を経過して、特別支援学校の卒業生を主とした利用者受け入れも順調に推移しており、平成29年度は卒業生を6名（生活介護4名、就労移行2名）迎え入れた。これにより現員46名となり2～3年後には定員に達すると見込まれ、経営的にも安定することになる。実習生受け入れは1年生の職場・事業所体験、2・3年生の実習生を受け入れている。

就労移行利用希望者の内、企業等への就労を目的とする人の割合が減っていることから、受け入れ体制や支援方針の修正・見直しが求められている。就労継続支援B型は就労移行からの利用者移動で22名となり定員を上回るようになったが、利用希望も多いことから生活介護利用者と合わせて施設定員等を検討する必要性に迫られている。

職員体制については、利用者支援の特徴から外部に出かける活動が多くあるため、配置基準

を超える職員を確保しながらも慢性的な人出不足状態にある。

【利用者支援状況】

生活介護は、午前・午後と4時限体制で行い、午前は外作業（腐葉土作り・公園清掃・センター前掃き掃除）と中作業（陶芸・ロザリオ作り・織物等々）、午後は体力保持の意味から5km程度の散歩を取り入れ、音楽（月・水・金の週3日音楽教師の免許を持った職員が音楽療法を行っている。）・絵画等の芸術活動をそれぞれの利用者が健康で幸せになれるよう取り組んでいる。祝日はお楽しみ企画としてドライブや調理実習等々を取り入れ、日常の活動以外のプログラムを組み休日を楽しめる工夫をしている。毎年支援学校卒業生を多く受け入れているため若い利用者が多いが、年齢や障害・行動特性等の幅が広い為、一人ひとりの満足度を高め、集団としての活動を維持するための工夫が必要になっている。

就労移行では、平成29年度就労実績が1名。SOMPOケアメッセージ株式会社にて有料老人ホームの清掃業務員として働いている。当事業所を利用する直前に障害者手帳を取得された方で、障害者枠での雇用経験がなく、気持ちの上でのケアや安定した職場定着に向けて支援を行っている。定着支援として、前年度までに就職した方々の定期的な職場訪問、電話相談等も継続して行っている。職場実習も含め、企業面接は2名の方で計5回。1名は上記清掃員として採用、もう1名は現在も就職活動中。企業見学として、特例子会社であるNTTクラリティ株式会社、恵実物流株式会社へ訪問。就労のイメージが湧き利用者の方にとってよい経験となった。またビジネスマナーの取得、技術向上を目的として法人内の病院栄養科での実践的な作業実習を日々行っている。前年度に就職された方1名が1年6ヶ月就労した後離職、現在再利用され、共に課題分析や今後に向けたプランを話し合い再就職に向けて作業実習を行っている。

就労継続支援B型では、利用者の方と職員が協力して作業を行っており、さらなる工賃アップを目指して、日々努力しながら経験を積んでいる。就労については、面談にて本人の意志を確認し、希望される方には個別にプログラムを組んでいる。祝日には余暇活動を設定し、バーベキュー大会やカラオケ大会、調理実習等を行っている。就労を目指しつつ、日々の生きがいを提供する支援が出来ればと考えている。

【作業種類】→パン作業と散歩、ポスティング作業以外は移行と共同で作業

- 外作業：桜町病院での食器洗浄、桜町病院本部館のトイレ清掃、桜町高齢者在宅サービスセンターでの食器洗浄、小金井市内アパート・駐車場の草刈り、小金井市内アパート清掃、小金井市より受託（公園トイレ清掃、公園・砂場清掃）
- 室内作業：パン製造作業、パン販売作業（支援センター1階、東小金井駅 nonowa 内店舗）、スウェーデン刺しゅう、小金井市より受託（リサイクル袋作り、凧作り）、内職作業（アクセサリーの袋詰め等）
- その他：散歩、パンのちらしポスティング作業

【施設整備状況】

- ・生活介護事業で10乗り送迎車両を購入。
- ・防災備品として備蓄食料の購入。
- ・作業用テーブル・椅子の購入

Ⅶ 事業所名 : 小金井聖ヨハネワークセンター
サービス区分名 : 就労継続支援B型事業

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
就労継続B型	20人	17人	14.8人	73.9%	78.6%	48.1%

平均年齢 40歳 (最高75歳 最低23歳)

男女比率 13名(男子) : 4名(女子)

平均在所期間 2.4年(最長5.7年)

年間入所 1名 年間退所 2名

【職 員】

	平成29年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成30年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
所長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	1	6	7			3	3			1	6	7
調理員		2	2								2	2
合計	3	8	11							3	8	11

【施設運営状況】

昨年度は新規受け入れに力を入れ増員してきたが、今年度は管理者、サービス管理責任者の交代、職員の入退職も頻回となり、職員の安定化、育成に努めた影響と利用者の定着に力を入れたため、新規受け入れは1名に留まった。来年度は地域との連携を強化し、今年度に行った他市からの受け入れも積極的に取り組み、新規利用者獲得に向けて力を入れていきたい。

就労実績は、2名の就労実績をあげ、アフターケアにも時間をかけ就労継続につなげた。利用者の仕事の確保は、受注仕事の開拓など営業にも積極的に取り組み、取引先の確保や受注枠の拡大を行った。

第三者評価を受審し、就労に向けた支援と就労後のアフターケアを丁寧に行っている、利用者が働きやすい環境づくりをしているとの良い評価もいただいたが、職員が働いていく上での意識改革が必要との指摘もあった。そのため、新3ヶ年計画を策定し正規職員の配置、山梨・東京間の人事異動などをおこない、管理職を含め職員層を厚くし、職員の成長と育成を第三者評価結果に基づき、改善、サービスの質の向上を進めている。また、利用者意思決定支援、虐待防止、権利擁護、緊急時支援、事業継続計画などマニュアルの改正整備に組み支援力の強化と利用者支援に活かしていく。

【利用者支援状況】

- ・新規受け入れ人数(H29.4～H30.3) 1名。
H28.3月18名 → 新規1名、就職退所者2名、年度末在籍者17名
他市(武蔵野市)より受け入れを行った。
- ・利用実績：年間利用延べ人数 3,815人(利用率73.9%)
- ・ハローワーク立川での求人検索、就労相談
- ・市内短時間アルバイト 読売センター小金井販売所
- ・内職業者2社より業務請負(有限会社加藤紙器製作所、株式会社新和)
- ・有限会社石井ホームサービス(不動産業)よりアパート清掃、草刈り作業請負
- ・ワークセンターにて制作した刺繍バック等の販売(桜町病院バザー、小金井市障害者週間イベント、教会バザー、tetoteサイト内でのネット販売)にも力を入れ収入増に努める
- ・利用者就労支援 就労実績2名(清掃業務・就労A型事業所)
(相談、連絡調整、職場訪問、アフターケア支援)
就労先
- ・岡三証券株式会社(清掃業務：武蔵野寮)
- ・株式会社ハートエース(就労継続支援A型事業所)

【施設整備状況】

- ・作業環境の整備を実施
作業台入替、備品・荷物の整理など、働きやすい、過ごしやすい様にレイアウト変更を行い、混雑解消、事故や盗難紛失などを予防し、安心して働きやすい”職場”づくりを行った。

Ⅷ 事業所名 : 小金井聖ヨハネケアビレッジ (7ユニット)
サービス区分名 : 共同生活援助事業 (介護サービス包括型)

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
本町1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
本町2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
貫井北町1	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町2	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町3	2人	2人	2人	100%	100%	100%
中町	6人	5人	6人	83%	83%	83%
梶野町	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	4人	—	1.4人	60%	36%	14%

平均年齢 53歳 (最高 75歳、最低 23歳)

男女比率 18名 (男性) : 16名 (女性)

平均在所期間 9.1年 (最長 14年)

年間入所 0名 年間退所 0名

【職 員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
世話人 生活支援員	8	28	36		1	3	1	3	2	7	30	37
合計	11	28	39		1	3	1	3	2	10	30	40

【施設運営状況】

グループホームは1箇所を除いて定員数を満たしている。体調不良で休む以外は日中活動先や職場へも通えており、安定した状況で利用者の生活が送られている。休日には移動支援を利用し、ヘルパーと本人希望の外出をしたり、近隣への買い物や散歩などは職員が付き添い、可能な限り利用者の要望に沿えるようにし、余暇の充実を図った。一人で外出可能な利用者には見守りを行った。また、利用者会議を定期的に行い、イベントなども利用者主体で企画が行われている。

職員は積極的に研修に参加し、日々の支援とサービスの向上に繋げていった。今後も、みなさんの生活に寄り添い、安全で安心できる居住空間を作っていきたい。

【利用者支援状況】

年々、体力の低下や機能低下が見られる利用者が増え、それと共に通院も増えており、支援が必要になっている。老化に伴ない運動能力の低下や骨密度などの低下もあるせいか、足の骨折をした女性利用者が2名おり、リハビリにも時間がかかっている。

今年度はインフルエンザワクチンが行き届かない状況にあり、予防接種ができない利用者もいたが、接種時と比較しても罹患者は例年と変わらずの状況であった。

【施設整備状況】

- ・本町ユニットのスプリンクラー設置
- ・各ケアビレッジに防災備品の購入

今年度、本町のケアビレッジには待望のスプリンクラーが設置され、利用者・保護者からも喜びと安堵の声が聞かれている。防災に関しては、消防署立会いの避難訓練や、地域の防災活動にも参加したり、防災備品の購入など、いざという時に備えている。

IX 事業所名 : 小金井聖ヨハネ短期入所
サービス区分名 : 短期入所事業

前年度に引き続き、契約者数は増えており、新しい方にも利用していただいている。定期的な利用者には対応できているが、急なケースや連泊は難しい場合がある。特に女性利用者の受け入れに関しては、付き添い職員の確保が難しく、今後人材確保も課題となる。保護者の入院などによる連泊対応に関しては、緊急性もあり、可能な限り受け入れ態勢を整える方向で取り組んだ。部屋の空き状況や、付き添い職員の確保が難しい場合には他事業所との連携を図り利用者の意に添えるように努力した。今後もみなさんが気持ちよく利用できるように、環境を整えていきたい。

X 事業所名	：ふらっとヨハネ
サービス区分名	：相談支援事業

【施設運営状況】

「聖ヨハネ会・障害福祉部門・東京事業所」の小金井地区と清瀬地区の各事業所を利用されている方を中心に「サービス利用計画」の作成とモニタリングを実施した。

今年度は相談員3名で分担しながらの聞き取り、作成をした。手分けしながらの作成は相談員一人にかかる負担が少なく、効率よく面談やモニタリングの報告書の作成ができた。しかし、兼任業務の相談員もいる中で、新規利用者の依頼や現利用者の要望や希望に即答する時間や対応する余裕がないのが現状であり、改善に向けての検討が必要である。

【利用者支援状況】

緊急の対応として短期入所利用をできるだけ、素早く利用できるように手配した。

小金井地区では定期的な利用が増え、安心した利用が続いている。清瀬地区では緊急の短期入所利用の後にグループホームの入居が決まるなど一定の方向がみられ利用者にとっては喜ばしいことである。また、利用者から他の事業所への移動希望があり、面談・見学・体験をしてスムーズな移動ができ本人ともども喜んだ。

平成29年度の支援学校高等部卒業生の受け入れを行い新規の利用計画を作成するとともに、これからの若い力を応援したいと思っている。

【施設整備状況】

- ・シュレッダー購入

◎教育研修（障害福祉部門 小金井）

日 時	研 修 名	会 場	出席者
6月1日	東社協 全体会（自閉症・行動障害研修会）	研究社英語センター地下2階大会議室	2名
6月23日～24日	東社協知的発達障害部会	神奈川県足柄郡大井町いこいの村あしがら	3名
6月26日～27日	東京都相談支援従事者初任者研修	練馬区立練馬文化センター大ホール	2名
6月30日	東社協 平成29年度第3回学習会	飯田橋セントラルプラザ12階会議室	1名
7月1日	東社協 平成29年度第4回学習会	飯田橋セントラルプラザ12階会議室	1名
7月7日～10日	東京都相談支援従事者初任者研修	国立オリンピック記念青少年総合センター	2名
7月12日	東社協 第1回セミナー	飯田橋セントラルプラザ12階	1名
7月18日	第1回知的障害者グループホーム世話人養成研修	飯田橋研究社英語センタービル	1名
7月20日～21日	第1回東京都相談支援従事者初任者研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
8月5日	東社協 学習会	東京都社会福祉協議会12階会議室	1名
8月18日	東社協「強度行動障害医療研修」	東京都心身障害者福祉センター	1名
8月25日	東社協 新任職員向け社会人研修	飯田橋セントラルプラザ12階会議室	2名
9月27日～29日	第55回全国知的障害福祉関係職員研究大会	名古屋国際会議場センチュリーホール	1名
10月24日	法人合同研修「食支援～最近の動向」	本館戸塚ホール会議室	3名
10月25日	東社協 労働基準法等に関する基礎研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター	1名
11月9日～10日	第25回職業リハビリテーション研究実践発表会	東京ビックサイト会議棟～国際会議場	2名
11月29日	東社協知的発達障害部会新任職員研修	研究社英語センター地下2階大会議室	3名
12月5日	富士聖ヨハネ学園 職員研修	聖霊修道院マリア館	2名
12月8日	東京都 障害者差別解消法シンポジウム	練馬区立・産業プラザ3階 coconeri ホール	1名
12月19日	東社協 採用（人事）担当者セミナー	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
12月20日	東社協 グループホーム世話人等研修会	研究社英語センター地下2階大会議室	1名
12月21日	東社協 強度行動障害支援者養成研修	飯田橋セントラルプラザ12階	1名
1月17日	法人合同研修「福祉人材育成」	本館戸塚ホール会議室	2名
1月24日～25日	東社協 社会福祉法人・施設会計実務研修会	中央大学駿河台記念館 2階281号室	1名
1月27日	東社協学習会『終末期ケアを考えてみよう』	東京都社会福祉協議会12階会議室	1名
1月28日	高齢障害者の基礎知識と具体的な支援研修	北とびあ7階第2研修室	1名
1月30日	食品衛生実務講習会A	府中グリーンプラザ けやきホール	1名
2月5日	法人合同研修「持ち上げない介護」	桜町聖ヨハネホーム3階会議室	1名
2月13日	東社協知的発達障害部会新任職員研修	研究社英語センター地下2階大会議室	3名
2月15日	法人合同研修「ハラスメントの防止」	本館戸塚ホール会議室	3名
2月19日	東京都サービス管理責任者研修	国立オリンピック記念青少年総合センター	1名
3月1日～2日	東京都サービス管理責任者研修（2,3日目研修）	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
3月8日	東社協 就労定着支援事業指定事務説明会	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名

拠点区分名：障害福祉部門 清瀬

XI 事業所名 : 清瀬聖ヨハネ支援センター
サービス区分名 : 生活介護事業

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
生活介護	20人	21人	17.3人	86.8%	99%	89%

平均年齢 42歳（最高64歳 最低 21歳）

男女比率 11名（男子）：10名（女子）

平均在所期間 3.2年（最長 3.6年）

年間入所 1名 年間退所 2名

【職 員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
所長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	2	7	9		1	4	1	4	2	1	10	11
調理員		1	1								1	1
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	4	10	14			1	4	4	2	3	13	16

【施設運営状況】

平成 29 年度は 7 月に東村山市の方が地域の事業所に移動希望があり、退所された。また、9 月に病気療養で 3 月から入院されていた方が亡くなり退所となった。平成 30 年に入り、学園からの地域移行でケアビレッジに入居された方が高齢となり心身ともに厚いケアを必要とし、さらに本人が「ヨハネ学園に戻って生活がしたい」との希望を考慮して退所となり学園に戻ることとなった。退所者が学園からの利用者（2 名）だったので学園からの地域移行希望を募り体験利用をしてもらい、1 名の入所が 2 月に決まった。もう 1 名は検討中である。結果、年度末現員 21 名となり定員を 1 名超えるだけの利用となった。基準では 25 名まで可能なため法定の範囲である。

平成 30 年度は支援学校卒業生を迎えることになるが地元の清瀬市民を多く受け入れて地域密着となるようにしていきたい。

【利用者支援状況】

開設4年を過ぎ、良い意味で支援の形が定着してきた。また、外部との交流が増えて外に出る機会も多くなり利用者の希望に応える活動ができています。活動内容は主に2つである。牛乳パックを和紙に再生して作る「ハガキやカード類」の工程作業を利用者の特性に合わせてながら進めている。そして利用者一人一人が持っている感情・感覚・感性をありのままに表現したものを絵画として創り出し、展示会などに出席して多くの方に“何か”を感じてもらえればと思っている。この創作絵画はこれからもいろいろとアイデアを出し合いながら進めていきたい。

【施設整備状況】

- ・玄関入口に大型・案内掲示板を設置

XII 事業所名	: 清瀬聖ヨハネケアビレッジ (4ユニット)
サービス区分名	: 共同生活援助事業 (介護サービス包括型)

【平成29年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H29度)	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)
下清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
下清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸1	7人	6人	6人	86%	100%	100%
中清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	2人	—	0.2人	11%	17%	17%

平均年齢 46歳 (最高 62歳、最低 27歳)

男女比率 13名 (男性) : 14名 (女性)

平均在所期間 6.9年 (最長 12年)

年間入所 1名 年間退所 2名

【職員】

	平成29年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成30年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	7	17	24	1	1	6	4	7	5	7	19	26
合計	9	17	26	1	1	6	4	7	5	26	19	28

【施設運営状況】

平成29年度は下清戸ユニットの女性利用者が3月より病気治療の為入院となり9月に亡くなってしまったという悲しい出来事があった。下清戸が開所してからの利用者だったのでとても寂しい限りであった。下・中清戸ユニットの全員でご冥福をお祈りした。

また、中清戸ユニットの男性が高齢でケアビレッジの生活や支援では難しくなり、本人の「ヨハネ学園に戻って生活がしたい」という希望もあり退所して学園に入所となった。2名とも学園からの利用者だったので学園に地域移行の利用希望を募り、体験利用を行ったうえで1名の女性利用者をお迎えした。中清戸ユニットの男性利用者は現在検討中である。

今年度は12月のクリスマス会を清瀬聖ヨハネ支援センターにて「下・中ユニット」の全員で「合同クリスマスパーティー」を開きお祝いした。

【利用者支援状況】

グループホーム生活はそれぞれの利用者の「家」であるので過ごし方はそれぞれである。毎日、日中活動がある事業所やデイケアに通い、思い思いに過ごしている。そして休日は、帰宅される方、ガイドヘルパーを利用して趣味や外出を楽しむ方、またはボランティアの人たちと音楽や会話を楽しむ方などいろいろである。何気ないひと時が安らぎとなるそんな空間や雰囲気大切にしている。

健康管理については、日々の生活の中で利用者のちょっとした変わり事に目を向けて支援者同士の話し合いと連絡を重ねて早期対応をしてきたが、突発的な利用者の怪我や事故を防げず痛い思いをさせてしまったこともあり、大変申し訳なかった。今後は原因や要因を考察し支援者同士で確認をして同じ怪我や事故を起こさないように気を引き締めていきたい。

また、清瀬市内のグループホーム事業所との「連絡協議会」は継続進行しているが会を重ねることでお互いの気心を分かち合い、いい意味での「友達関係」に繋がっていきけるようにしたい。

【施設整備状況】

- ・ 厨房漏水等水回り関連補修 (下清戸)
- ・ 厨房キッチン流し台の新設交換 (下清戸)
- ・ 全居室エアコン洗浄と調整 (下清戸・中清戸)

XIII 事業所名	: 清瀬聖ヨハネ短期入所
サービス区分名	: 短期入所事業

平成27年10月に定員2名で開始した下清戸ユニットに併設の短期入所事業は、徐々に認知度が高まって利用者が増えている。定期的な利用者のみならず、緊急の一時保護のような依頼にもこたえられる様に職員全員で受け入れ態勢を整えている。

◎教育研修（障害福祉部門 清瀬）

日時	研修名	会場	出席者
6月15日	東社協 強度行動障害支援基礎講座	シャロームみなみ風地域交流スペース	1名
6月26日～27日	東京都相談支援従事者初任者研修	練馬区立練馬文化センター大ホール	1名
7月12日	東社協 第1回セミナー	飯田橋セントラルプラザ12階	2名
7月15日	東社協 第5回学習会「当事者の方々との対話」	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会	1名
8月9日	東社協第2回セミナー「case study#ものづくり」	飯田橋セントラルプラザ12階	1名
8月21日～22日	全国グループホーム等研修会北陸地区大会 in 福井	フェニックスプラザ（福井県）	1名
9月11日	福祉経営 福祉従事者研修7	ルーテル市ヶ谷センター	1名
10月11日	東社協『CASE STUDY#ディスプレイ』	飯田橋セントラルプラザ12階	1名
10月24日	法人合同研修「食支援～最近の動向」	本館戸塚ホール会議室	2名
11月10日	福祉経営 福祉従事者研修7	ルーテル市ヶ谷センター	1名
12月5日	富士聖ヨハネ学園 職員研修	聖霊修道院マリア館	1名
12月21日	施設見学ツアー『表と現』創作活動編	社会福祉法人友愛学園成人部	1名
1月17日	法人合同研修「福祉人材育成」	本館戸塚ホール会議室	2名
2月4日	東京施保連4団体共催研修会【第3回】	板橋区立ハイライフプラザいたばし	1名
2月5日	法人合同研修「持ち上げない介護」	桜町聖ヨハネホーム3階会議室	1名
2月15日	法人合同研修「ハラスメントの防止」	本館戸塚ホール会議室	2名
2月22日	法人合同研修「組織の一員としての基礎知識」	本館戸塚ホール会議室	1名
3月10日	東社協 第2回合同学習会	飯田橋セントラルプラザ12階	1名
3月27日～28日	障害福祉部門新任研修	富士聖ヨハネ学園・青少年センター	1名

2. 高齢福祉部門

【 総 括 】

桜町センター土地無償貸与期限の交渉と事業再編（中期経営計画）

桜町高齢者在宅サービスセンターの土地は、小金井市から30年間の無償貸与契約により、市民の高齢者在宅サービスの為に、ヨハネ会が桜町高齢者在宅サービスセンターを建設し事業展開してきたが、平成31年1月に無償貸与の満期期限を迎える。法人にとってこの土地の有効利用は、今後も大きく法人経営に関わるため、法人本部と高齢福祉部門は、4月より協議検討に入り、また小金井市との話し合いも5月より始まった。

まず中期経営計画では、桜町聖ヨハネホームの建替時期を機に、高齢福祉部門の事業再編を視野に戦略が構想されている。これによると、桜町聖ヨハネホームの建替時に、人財の集中化や事業の統合化・再編を行い、桜町聖ヨハネホームと桜町高齢者センターと本町高齢者センターが一つの総合福祉施設に入り、機能を強化し今後の地域包括ケアシステムの社会や地域に貢献することを想定している。したがって現行の桜町センターの建物で同一事業内容で継続していくわけでない。また本町高齢者在宅サービスセンターは、小金井市指定管理者制度で運営されているが、社会の高齢介護のニーズもこの20年で大きく変化しており、法人側の負担も増加が見込まれている状況で、小金井市指定管理者をどこまで継続していくのかも連動している。

こうした構想を下半期は、小金井市と法人協議の中で、お伝えしていくこととなった。

法人としては、敷地隣接地（桜町センター土地）で、小金井市で初めてとなる高齢者在宅サービス事業を小金井市と協働して実施してきた経緯や今後も社会福祉事業を市民・地域の為に行うことで、無償貸与継続を念頭に交渉しているが、小金井市側からは、社会福祉法人に対する無償貸与の文言が指針から外れたため、有償契約を申し入れられている。これについては、法人側は丁寧な説明とお願いを継続しているところである。

上記に関連して今年度は下記に取り組んだ。

- 高齢福祉部門定期部長会議で中期経営計画・事業再編の検討 経営層
- 東京都特養建替代替施設（清瀬）事業説明会・検討会に参加 園長
- 高齢福祉部門の現状と今後について 法人経営会議で構想を発表 経営層
- 地域包括ケアシステムの法人内連携 法人経営会議に参加・提案 経営層
- 事業再編についてユニット型特養と通所リハビリを運営している社会福祉法人を視察
（2018年1月 千葉県白井市 法人本部事務局長と高齢福祉部門経営層）
- ユニット型特養施設の見学・研修会参加 施設サービス部幹部

人財育成について（中期経営計画）

高齢福祉部門では、中期経営計画の4つの視点（人財育成の視点・組織の視点・サービスの視点・財務の視点）の中で最も重要項目として、人財育成（人材確保・人財定着・人財育成）に積極的に取り組んでいる。

特に人財育成については、職員が自分を振り返り積極的に仕事をしていくこと、共感する仲間を増やす、職場内でのコミュニケーションを充実させるなどのナラティブ（物語）手法について、複数で研修を受け検討し次年度実施に向けて準備に入った。

上記に関連して今年度は下記に取り組んだ。

- 高齢福祉部門 第三者サービス評価会議 第一回開催 (人財育成)
- 永年勤続表彰の運営 2 年目 (人財定着)
- 介護職員採用確保チームの取組み 就職フェア・合同就職説明会に参加 (人材確保)
- 東京都助成金事業 介護体験事業実施 (人材確保)
- 広報強化・ホームページ委員会の充実 (人材確保)
- 適正な労働時間のために説明会実施 施設サービス部 (人財定着)
- 介護職員等職員借上社宅制度の継続 (人材確保・人財定着)
- 武蔵野大学社会福祉学科・上智大学大学院との交流 (人財育成)
- 積極的な人事異動 (人財育成)

財務状況について

桜町高齢者在宅サービスセンターと本町高齢者在宅サービスセンターの在宅サービス部門は、ほぼ年間を通じて利用率向上をキープし事業収支会計・資金収支会計とも黒字を計上している。一方、桜町聖ヨハネホームは、3 期ぶりに事業収支会計・資金収支会計とも赤字に転じている。施設サービス部においては、介護職員の定着が見られたが、生活相談員及び看護師・事務職員の退職による補充採用がなかなか進まず、派遣職員費が増加し、またサービスの柔軟で迅速な受け入れが遅れ財務状況に大きく影響があった。また、桜町聖ヨハネホームの入所利用者の入院者が通年激増し収入目標に大きく到達できなかった。

また、法人の会計方針により今期より賞与引当金繰入を計上し、桜町聖ヨハネホームは赤字が増加し桜町高齢者在宅サービスセンターと本町高齢者在宅サービスセンターは、黒字幅が減少した。

- 桜町聖ヨハネホーム 事業収支会計 ▲5037 万円 資金収支会計 ▲2042 万円
- 桜町高齢者センター 事業収支会計 1285 万円 資金収支会計 690 万円
- 本町高齢者センター 事業収支会計 292 万円 資金収支会計 907 万円

I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【平成 29 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H29度)	利用率(H28度)	利用率(H27度)
介護老人福祉施設	106名	99.4名	93.8%	95.8%	94.3%
短期入所生活介護	8名	5.5名	68.2%	78.0%	87.1%

※定員 106 名の内、2 床：看取室・緊急ショート室として利用。

平均年齢 86.7 歳（最高 104 歳、最低 56 歳）

男女比率 18 : 85（2018 年 3 月 31 日現在：103 名）

平均在所期間 3 年 4 ヶ月（最長 17 年 10 ヶ月）

年間入所 20 名（2016 年度入所：19 名・2015 年度入所：24 名・2014 年度入所：34 名）

年間退所 22 名（2016 年度退所：18 名・2015 年度退所：24 名・2014 年度退所：26 名）

【職員】

	平成 29 年 3 月 31 日の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
医師	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	6	6
生活相談員	2	2	4	0	1	0	0	0	1	1	2	3
介護支援専門員	(3)	0	(3)	0	0	0	0	0	0	(3)	0	(3)
介護員	30 (3)	18	48 (3)	7	3	4	2	11	5	29 (3)	18	47 (3)
看護師	5	2	7	1	2	1	0	2	2	4	3	7
機能訓練指導員等	1	2	3	0	0	0	0	0	0	1	2	3
管理栄養士	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
調理員	4	9	13	1	0	0	1	1	1	5	8	13
事務員	2	2	4	3	1	0	1	3	1	4	0	4
生活サポート	0	18	18	0	0	0	3	0	3	0	15	15
用務員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	46 (3)	61	107 (3)	12	7	5	7	17	13	46 (3)	56	102 (3)

※上記表には管理宿直員含まず ※副園長（常勤）は機能訓練指導員兼務

※介護派遣職員 平成 30 年 3 月 31 日現在 夜勤専従員介護員 1 名

【施設運営状況】

1. 財務状況について

今期は、財務状況が好転せず3期ぶりにホーム事業収支会計、資金収支会計とともに赤字を計上した。事業収支会計は今期、▲5030万円の赤字。過去3か年は着実に赤字の改善を進めて、2016年度には、黒字化まで▲261万円までのところに来ていたが、今期は、財務改善が計画通り進まず大きな赤字を計上した。事業収支会計の赤字の主な原因は、①ご利用者様の入院数が激増し目標に届かず▲1300万円。②法人単位での会計方針の変更により、賞与引当金繰入を追加計上し▲1170万円。③老朽化による、修繕費・固定資産物品の更新が▲560万円。④介護職員・看護職員の不足による派遣職員費▲960万円。⑤ショートステイ利用料の減収▲600万円などである。

資金収支会計の決算額は、直接、財源・資金を減らすものと警戒し特に黒字化を必須とし進めてきたが、これも3期ぶりに今期は、▲2060万円の赤字計上となった。主な原因は、事業収支会計と同様、特に入院数の激増・ショートステイ減収などによる収入減と介護職員・看護職員の不足による派遣職員費増加が挙げられる。

サービス活動の件費率は、今期、84.9%で大きく増加している。原因は、会計方針の変更による賞与引当金繰入1200万円。派遣職員費960万円などが含まれているので、これを含めない場合は、80.3%となる。収入目標の未到達と併せて、件費率が増加している。尚、2017年度中に介護職員の補充と定着が進み介護職員確保のための派遣職員費の問題は、2018年度にかけて改善されている。(件費率の過去の推移は、2016年度は73.6%、2015年度は75.9%、2014年度は75.18%、2013年度は78.11%である。件費率を改善することは、引き続き努力を要する。)

今期の減価償却費は、2017年度は、2538万円を計上した。2016年度2478万円、2015年度2568万円、2014年度2770万円、2013年度3160万円計上であり、これを完全にカバーできる財務状況にはまだ至っていない。引き続き財務改善の取組みを継続するが、まずは、資金収支会計での確実な黒字継続を目指す。

2. 入退所の動き（入院数増加傾向により財務課題に）

ベッドが空いている期間が短くて済むよう工夫し、スムーズな入所がなされるよう継続し取り組んでいる。今期は、総計20名の新入所で退所は総計22名。退所の動向は、22名の内、施設内でご逝去が10名、病院入院中でのご逝去が5名。その他、長期入院などで医療機関等への退所が7名と増加傾向になっている。

新入所は、施設全体で積極的に展開したが、今期から入院者が激増しており、収入の大幅減の大きな要因となっている。感染症対策も充実し健康管理にも努めたが、重介護度や病弱な利用者も増加しており、入院数が平均して増加してきている。施設サービス部では、1日2名程度の入院を想定して予算措置しているが、今年度の平均利用人員が99.4名と1日5名弱の入院ペースとなっている。特に夏以降から3月にかけて入院が常習化した。入院中の空きベッドをショートステイ利用者に充てるためには、桜町病院との連絡を一本化して、スムーズな連絡調整が必要であるが、その場合でも入院数が一定数を超える場合は、ショートステイ対応も限定的である。今後、法人内での共有と対応が必要と考えられる。

【利用者支援状況】

施設目標 人生の完成に向かって歩まれている利用者様に

『大切にされていると思われるケア』を实践する。 【サービス】

(1) 職員一人一人が役割と責任と誇りを持つ 【人財育成】

施設サービス部には、7つの会議と4つの委員会と13の担当とチームがある。

それぞれが目的をもって活動した。

● リスクマネジメントについて

主に介護事故予防対策会議での取り組みとして

1) 園内研修による予防対策

「急変時の対応 一時救命処置 心肺蘇生・AED」を消防庁の職員を招き実践した。

「薬剤・ヒューマンエラー」「急変時の対応 座学と演習」を実施し、一般的な知識習得と共にこの施設環境下での対応能力の向上を図る職員教育を実施した。

2) 転倒転落予防の取り組み

「転倒転落アセスメントシート」の定期的なリスク評価は定着した中さらにより良くするためにアセスメントシートを改善していく意見も出されている。

3) 事故対応の不備への対応

ご家族への連絡や事故報告書の作成基準を取り決め、事故対応チェック表の活用を開始した。退所に必要な事項を可視化するとともに内に知の夜勤者への申し送り時に口頭で「事故対応チェック表の活用」を復唱し、不備につながる『忘れ』の予防をはかっている。

4) 『ヒヤリハット・危険予知活動』の開始

利用者が特定できないヒヤリハット・危険予知の気づきを会議で取扱い、課題解決している。

● 感染症対策について

感染症予防対策委員会メンバーが中心となり、感染症のハイシーズンの面会に関してや食中毒時期の食品の持ち込みについてあらかじめ面会予定日に何を持って来るかの相談を受ける仕組み作りをした。排泄の処理の仕方も前年度のやり方を踏襲し、2017年度は東京都はインフルエンザも警報レベルと猛威を振るったが、ホームでは蔓延するようなことはなかった。ノロによる嘔吐も無く感染症が蔓延するような事態には至らなかった。これは医務係が感染症対策指導者研修でのメッセージを毎朝朝礼で、発信し職員に注意喚起を図ったことも一助となっていると思われる。

● サービスへの取り組み

ご利用者の認知症のレベルが落ちた時に、職員のちょっとした気づきを大切にそれをリーダー層やベテラン職員から中堅・新人職員に伝えていく事は今後も継続が必要と考える。新人の教育に関してはリーダー層と新任担当者との間で今後も情報共有を実施して連携を図っていく事が必要である。行事の際は、人員を厚く配置して、安全に行うことが出来た。

栄養褥瘡委員会にて、低栄養や褥瘡のリスクを総合的に判定できるように提案し、評価した。リハビリ会議において、ご利用者に合ったプログラム。サービスの提供が出来る様にご利用者様お一人お一人に対して検討をした。

この様に職員一人一人が明文化された自分の役割を遂行し、それにより責任感と誇りを

持ちながら仕事が出来たと考える。

(2) 組織を強化し、開かれた施設であり続ける。 【組織】

施設サービス部は専門職業集団である。専門家としての知識技術に対する探究心は、とてもあるが一方、組織人としての自覚に薄い面が見られる。それぞれの役職者に対して、今までは〇〇さんなど名前の呼称であったが、部課係長に対して呼称を部課係長をつける意識をし、課・係長それぞれの役職者が自分の役割を意識できるような面談を実施し、特に介護係は大所帯の為、面談をツリー型にして、リーダー層もリーダーとしての自覚を持てるようにした。これによりリーダー層から面談のやり方についての意見などが出て、来年度の課題として整理出来た。

家族会やボランティア懇談会、緑中学校や恵泉女子のボランティアや個別の団体の受け入れなど多くあり、今後も外の方の眼を多く入れることで開かれた施設であり続けたい。

(3) 財務の健全化が継続できる。

残念ながら今期は、収入目標に到達することが出来ず、3期ぶりの資金収支会計の赤字計上となっている。(財務状況についてを参照) また入院数の状況などは財務に影響が、あるため下記に入院状況・退所動向を報告する。

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| 1) 平均入院総日数 | 1179 日 |
| 平均入院日数 | 26 日 (入院中のご利用者様除く) |
| 長期入院による退所者 | 6 名 |
| 結核入院による退所者 | 1 名 |
| 入院延べ人数 | 52 名 (4/1 現在入院中 8 名含む) |
| 2) 逝去者 (4/1 現在) | |
| | 15 名 (ホームでのご逝去 10 名 病院でのご逝去 5 名) |

特記事項 緊急ショートステイの受け入れについて

利用者数は男性 3 名。女性 3 名の計 6 名。延べ利用日数は 59 日であった。
前年度は、実績 13 名。延べ利用日数 153 日の実績状況である。利用内容は主な介護者の急病・入院・冠婚葬祭・介護者からの不適切な介護・虐待等があげられる。在宅での老老介護の実態が汲み取れる。また、異常気象による夏場の熱中症や孤独死においても、被害防止の為に、緊急ショートステイの利用は有効性が見られる。今後も増え続けるであろう通常サービスでは対応できない受入サービスとしての緊急ショートステイは必要性が高いものと考えられる。

〔Ⅰ〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2018年3月31日現在・単位(人)・78名調査>

種類 \ 区分	介助されていない	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	7 (9.0)	48 (61.5)	15 (19.5)	8 (10.3)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	10 (12.8)	5 (6.4)	38 (48.7)	25 (32.1)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	6 (7.7)	2 (2.6)	11 (14.1)	59 (75.6)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	6 (7.7)	6 (7.7)	30 (38.5)	36 (46.2)
排 泄・排 便 (構成比 %)	6 (7.7)	4 (5.1)	34 (43.6)	34 (43.6)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (24.4)	59 (75.6)
起 床 (構成比 %)	1 (1.3)	0 (0.0)	45 (58.4)	31 (40.3)
寝 返 り (構成比 %)	4 (5.2)	0 (0.0)	49 (62.8)	28 (35.9)
立ち上がり (構成比 %)	1 (1.3)	0 (0.0)	40 (51.3)	37 (47.4)
歩 行 (構成比 %)	7 (9.0)	0 (0.0)	16 (20.5)	55 (70.5)

〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について (前年年度末:比)

	男性	男性	前年同日比増減
	男性	男性	前年同日比増減
要介護1	0名	0名	0名
要介護2	1名	1名	0名
要介護3	3名	5名	-2名
要介護4	10名	7名	+3名
要介護5	4名	4名	0名
合 計	18名	17名	+1名

〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について (前年年度末:比)

	女性	女性	前年同日比増減
	女性	女性	前年同日比増減
要介護1	3名	4名	-1名
要介護2	7名	7名	0名
要介護3	15名	18名	-3名
要介護4	40名	38名	+2名
要介護5	19名	18名	+1名
合 計	84名	85名	-1名

栄養部の取り組み

栄養管理係・総合給食係

栄養部とは行事食の提供について話し合い、留意点を共有しサービスに繋げることが出来た。栄養部は、郷土料理の企画・提供が出来た。摂食嚥下の講習会、とろみ剤の勉強会を実施した。今後、食形態、とろみ形態の統一化に向けて今後も継続し実施していく。

また、非常食担当職員が防災委員会と連携し、非常食の整理を実施し、災害時に使用する機材の確認を実施した。災害時初回提供職の整備も他職種と共有した。

【施設整備状況】

建設後 31 年を超えてライフライン関連の高額な設備機械の更新や修繕費対応が近年続いている。今期は、新車両約 200 万円の寄贈があった。その他には 1 件で 100 万円を超過する高額な固定資産物品の取得や修理・工事なかったものの、定期的な固定資産物品の更新による購入や修理・工事は多くなっている。介護用ベットは、老朽化し不具合が心配なベットを中心に年間複数台を更新している。

修繕費については、ボイラー温水・冷房チラー・配水管等の日常点検を強化し、漏水など故障箇所の早期発見を努めている。また、職員にも不具合箇所の早期報告に協力してもらっている。しかし今期の修繕費総額約 375 万円で前年度より増加している、(2016 年度 300 万円・2015 年度 236 万円・2014 年度 593 万円・2013 年度 423 万円) 修繕費においても支出削減の財務改善を図ってきたが老朽化による修繕費増加の固定化が見られる。

特に今期は、老朽化により温冷水配管の漏水と結露が激しく、居室・廊下・食堂などが漏水し冷房チラーの稼働期を終えて漏水補修工事約 66 万を実施した。予算時に計画的に優先順位をつけて予算化しているが、予期せぬ修理・更新も多くなってきており、対応に追われる状況がある。

有形リース資産は、ご利用者様の居室防災カーテンの更新時期にあたり、継続し 5 年間のリース契約：約 460 万円を行った。(夏冬交換方式)

1. 主な固定資産取得 (器具及び備品・車輛運搬具)

● 8/23	医務室ノート型パソコン (ゼロックス)	119,664 円
● 9/3	介護用電動ベット 4 台 (日本エンゼル)	1,292,760 円
● 9/28	スバル軽車両シフォン 1 台 (川上和泉氏寄贈)	1,986,929 円
● 11/30	共有データ LAN DISK セット (I-O DATA)	132,840 円
● 1/31	1 階通用口風防カーテン (鈴木工務店)	284,148 円

2. 主な修繕費支出

● 4/19	職員通用口自動施錠修理・鍵作成 (金井堂)	95,928 円
● 5/31	入浴ロベリア：ホース、パンジー：扉キャスター	189,539 円
● 6/14	漏電ブレーカー・防水コンセント (司電気)	129,600 円
● 6/30	2 階食堂電源・照明・1 階換気扇 (司電気)	176,580 円
● 6/30	食堂吊り戸・ドレン詰り・厨房転倒防止シート	185,868 円
● 7/31	ボイラーオーバーフロー漏水修理	52,920 円
● 7/31	館内照明設備・非常照明器具 (司電気)	398,660 円

- 7/31 食堂下膳口部分床修理（鈴木工務店） 139,320 円
- 8/15 生ごみ処理機修理 101,736 円
- 8/31 入浴：ロベリアキャスター・個浴部品修理等 155,584 円
- 11/30 全館漏水部分の配管保温・天井補修（鈴木工務店） 658,800 円
- 11/30 地下浴室床部分の補修（鈴木工務店） 72,360 円
- 12/31 入浴パンジー：モーター修理 154,537 円

3. リース資産 計上分

- 6/30 各居室防炎カーテン（キングラン） 4,568,400 円

【教育研修一覧】

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	新任研修	法人本部・各施設	戸塚ホール、ホーム3F他	4/3, 4, 5	江黒・長谷川・西澤・福岡・本郷・田島・齋藤・伊東
2	介護職の為の接遇・マナー研修	東京都介護福祉士会	ティアラこうとう	5/16	福岡
3	アクティブ福祉in東京16 「介護リフト」の導入と実践	東京都高齢者福祉施設協議会	研究社英語センター地下2F大会議室	5/24	芦澤・志藤
4	平成29年度東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/30	柴田・森崎・長谷川
5	平成29年度管理監督者・職場リーダーのためのラインケアセミナー	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館	6/6	志藤
6	「労働時間と賃金管理の基本」「人材確保のための助成金」	公益財団法人 介護労働安定センター 東京支部	中野サンプラザ	6/13、6/20	福岡
7	介護施設経営者のための安全衛生対策セミナー～腰痛対策を中心に～	中央労働災害防止協会	女性就業支援センターホール	6/6	芦澤
8	求める人材に広報で想いを届ける研修会	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター地下2F大会議室	6/15	谷村
9	「むせ込み」「口を開けない」食形態の洗濯・変更のタイミングと食事ケア	全国高齢者施設看護師会	タイム24	7/2	青木
10	「虐待の芽に対応する力をチームの中で育てるには～チームリーダーのあなたにできること」	NPO福祉経営ネットワーク	ルーテル市ヶ谷センター	7/4	橋本
11	東京都個別ケア研修	一般社団法人日本ユニットケア推進センター	多摩永山情報教育センター教育棟	7/12	及川
12	第9回認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	7/18、7/19	前田・西澤
13	「職場の魅力の伝え方」	ナースバンク	ナースバンク立川研修室	7/20	芦澤・小林
14	平成29年度社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局長	東京都社会福祉保健医療研修センター	7/27	土方
15	根菜類が短時間で柔らかくなる！圧力鍋調理セミナー	EATREAT	Eatreat(株)キッチンステージ	7/27	西河
16	シーティング基本知識と実践講座	株式会社雲母	機械工具会館	8/8	町山
17	ミーティングリーダーシップ研修 話し合いの質を高めるために	東京都ナースプラザ	東京都ナースプラザ2F 大教室	8/15	青木
18	「助成金」を上手に使う	介護労働安定センター	中野サンプラザ	8/17	谷村
19	平成29年度 介護福祉士実習指導者講習会	東京都介護福祉士会	ティアラこうとう	8/22・28・29・30	山根
20	キャリアパス対応生涯研修課程「中堅職員研修」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	8/29	土方
21	クレーム対応の手がかりと実績 パーソナリティに偏りがあがる人を理解する	東京都ナースプラザ	東京都ナースプラザ3F	8/31	田邊
22	社会福祉法人広報強化セミナー	全国社会福祉協議会政策企画室	全国社会福祉協議会会議室	9/11・12	谷村
23	平成29年度社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局長	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/12	木野
24	ユニット型特養の強みと活かし方を学ぶ	東京都社会副士協議会	特別養護老人ホーム真寿園	9/13	芦澤
25	特定給食施設栄養管理講習会	多摩府中保健所	多摩府中保健所 会議室	9/12・26.10/2・	岩崎・西河・井口
26	介護職の感情コントロール研修	介護サービス向上推進協議会	会議室 内海	9/25	森崎
27	平成29年度「キャリアパスを活かした人事管理と育成制度」	東京都福祉人材センター研修室	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/28	及川彩子
28	平成29年度社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局長	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/4	藤村
29	平成29年度介護職員スキルアップ研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/19・2011/14	吉井

30	平成29年度東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	立川グランドホテル	10/26	大川内
31	ファシリテーター育成 即戦力向上4日間講座	全国援助職ネットワーク	飯田橋セントラルプラザ	10/12・11/20	遠藤
32	介護労働者の労務管理に関する説明会	東京労働局	立川地方合同庁舎3階	10/11	及川
33	人材育成のための助成金活用方法セミナー	介護労働安定センター	中野サンプラザ	10/12	谷村
34	平成29年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都	東京都庁第一庁舎5階	10/17	小林
35	『職場の魅力の伝え方』イキイキと働ける職場づくりと効果的な採用活動の方法	東京都ナースプラザ	東京都看護協会会館	10/17	藤井・山極
36	感染管理	東京都ナースプラザ	東京都ナースプラザ	10/18	田邊
37	「高齢者福祉施設における接遇・マナーを学ぶ研修会」	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター地下2F大会議室	10/19	廣瀬
38	平成29年度介護サービス事業管理高齢者権利擁護研修	東京都福祉保健財団	平成帝京大学	11/2	橋本
39	リーダーを支える部下力養成講座	日本経営セミナー事務局	天王洲郵船ビル22F	11/8	鈴木
40	ユニット型特養の強みと活かし方を学ぶ	東京都高齢者福祉施設協議会	飯田橋セントラルプラザ10F	11/13	藤井
41	組織やチームの停滞感・閉塞感は何で生まれるのか、管理職の意識改革で職員の心に火をつけ	日本経営セミナー事務局	日本経営セミナールーム	11/17	芦澤・谷村
42	第7回 地域包括ケア講演会	小金井市医師会地域包括ケア推進委員会	小金井官地楽器ホール 小ホール	11/20	小林
43	キャリアパスと賃金体系	介護労働安定センター	中野サンプラザ7F研修室	11/15	芦澤
44	昇給昇格制度とその運用	介護労働安定センター	中野サンプラザ7F研修室	11/15	藤井
45	介護技術等に関する講習会	介護労働安定センター	東京体育館	11/17	及川
46	人が集まる、人が育つ、実効性のあるキャリアパス」	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	11/22	芦澤
47	平成29年度公正採用選考人権啓発推進委員研修会	立川公共職業安定所	立川地方合同庁舎	11/24	及川
48	「求職者の心に響く採用活動」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	12/19	磯野
49	人事管理と評価制度	介護労働安定センター	中野サンプラザ7F研修室	12/20	藤井
50	ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業	東京都福祉保健局高齢社会対策部	特別養護老人ホーム 砧ホーム	1/26	森川
51	キャリアパス対応生涯研修課程	東京都福祉人材センター研修室	東京都社会福祉保健医療研修センター	1/30・31	齋藤
52	H29年度 社会福祉法人施設会計実務研修会	東京都社会福祉協議会	中央大学駿河台記念館	1/16・17・26	加藤
53	ユニット型特養の強みと活かし方を学ぶ	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	1/22	及川・鳥海・森川
54	食品衛生実務講習会A	東京都多摩府中保健所	府中グリーンプラザ	1/30	永野
55	平成29年度福祉事業者における権利擁護・苦情対応研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/16	遠藤
56	平成29年度「キャリアパス対応生涯研修課程」管理職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/20・21	及川/荒井
57	「平成29年度福祉事業所のための研修体系確立・推進研修第5回」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/27・28	小野
58	介護のプロに求められる認知症ケア	株式会社 学宣	B I Z 新宿	3/7	大川内
59	ラショナル・クッキングライブ	(株)ラショナル・ジャパ	マルイガス東京(株)	1/25	江黒
60	高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	2/7	谷村
61	施設職員向け福祉用具講習会	東京都福祉保健財団	東京都福祉保健財団研修室	2/9	木野
62	座位が変われば暮らしが変わる	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル7F	2/17	吉井・属
63	介護請求事務に関する研究会	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル7F	2/21	廣瀬・谷村
64	身体拘束とその弊害	NPO 全国抑制廃止研究会	武蔵野大学有明キャンパス	2/27	山根
65	福祉大臣決算セミナー	応研株式会社	応研(株)東京本社4F	3/8	加藤
66	平成29年度「福祉用具・新製品展示説明会」	公益財団法人 東京都福祉保健財団	東京都福祉保健財団	3/8	磯野・町山
67	平成30年度「介護職員就業促進事業」説明会	東京都福祉保健局高齢社会対策部	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	3/8	芦澤
68	ケアフード東京	ケアテックス	東京ビッグサイト	3/14, 15	坂本・江黒・岩崎・朴
69	平成30年W改訂直前！押さえておくべきポイント！～我々に求められるミッションとは～	東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	3/16	遠藤
70	平成30年4月介護報酬改定等に伴う事業者説明会	国民健康保険団体連合会	ルネ小平	3/22	廣瀬

II 桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業
 小金井きた地域包括支援センター（小金井市委託事業・介護予防支援）

【平成29年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間延定員	延べ利用者数	1日平均利用者	利用率(H28年)	利用率(H27年)	利用率(H26年)
介護保険事業	通所介護 (一般・予防・総合事業)	30	9,180	8,711	28.5	94.9%	97.5%	92.6%
	通所介護(認知)	24	7,344	5,100	16.7	69.4%	67.8%	70.8%
	訪問介護	120/週	6,120	5,510	18.0	90.0%	105.8%	92.0%
	訪問入浴	5.3	1,625	1,464	4.7	90.1%	106.6%	97.3%
	居宅介護支援	155/月	1,860	1,896	158/月	101.9%	103.1%	97.2%
	予防・総合事業 プラン	260/月	3,120	3,556	202.3/月			
栄養事業	給食	38	11,628	12,047	39.4	103.6%	106.0%	95.3%
	配食サービス	70	20,650	20,698	70.7	100.2%	100.2%	92.7%
市委託事業	やすらぎ支援	年間延派遣回数 153回 実利用者数 6名 支援員登録数 6名						

● 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 通所介護（一般・予防・総合事業）

平成29年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	136	886	855	2,876	2,176	1,373	974	18	9,294
割合	1.5%	9.5%	9.2%	30.9%	23.4%	14.8%	10.5%	0.2%	100.0%
平成28年度	/	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数		955	642	3,284	1,959	916	938	19	8,713
割合		10.9%	7.4%	37.7%	22.5%	10.5%	10.8%	0.2%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

平成29年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	838	1,189	1,226	1,236	773	5,262
割合	0.0%	0.0%	15.9%	22.6%	23.3%	23.5%	14.7%	100.0%
平成28年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	1,385	1,330	869	1,027	491	5,102
割合	0.0%	0.0%	27.1%	26.1%	17.0%	20.1%	9.6%	100.0%

【職員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 4 月 1 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員	合計
センター長	1名		1名					0	0	1名		1名
事務長	0名		0名					0	0			0名
介護員	2名	12名	14名	1		1	2	1	2	3名	10名	13名
相談員	9名	2名	11名	3	2		1	3	3	10名	1名	11名
看護師	1名	7名	8名					0	0	1名	7名	8名
介護支援専門員	4名	1名	5名					0	0	4名	1名	5名
訪問介護員	0名	11名	11名				1	0	1		10名	10名
運転員		5名	5名					0	0		5名	5名
栄養士	2名	1名	3名					0	0	2名	1名	3名
調理・補助・宅配		4名	4名			1	1	1	1		4名	4名
理学・作業療法士		1名	1名					0	0		1名	1名
事務員		3名	3名					0	0		3名	3名
高齢住宅管理人		7名	7名					0	0		7名	7名
清掃員他(洗浄員)		3名	3名				1	0	1		2名	2名
合計	19名	57名	76名	4	2	3	6	5	8	21名	52名	73名

【施設運営状況】

(1) 財務に関する取り組み

平成 29 年度は財務の安定を目標に事業運営に取り組んだ。通所介護・訪問介護事業における要支援者の総合事業移行による収入の減少が予想される中、各事業が財務安定の為の具体的な数値目標を設定し、高齢福祉部門経営会議・在宅サービス部運営会議・職員会議等で、現況報告や問題点・実績改善に対する具体的な内容を話し合い、各職員が方針に基づいた対応を実践しながら目標達成を目指した。

引き続き実施した年間 12 日間祝日営業、困難ケースや重度介護者の積極的受け入れ、事業所への営業活動や信頼関係の構築の効果がみられたことで通所介護事業が高い利用率を残せたことで、平成 29 年度決算は、桜町高齢者在宅サービスセンター全体で当期資金収支差額が 690 万円、当期活動増減差額が 1,285 万円の黒字という結果を残し財務的には安定した運営を行うことができた。

ただし、冬場に入り認知症対応型通所介護の利用率が急激に低下している現状がある。通所介護事業は桜町センターの財務安定に直結する事業だけに、サービスの魅力を発信し利用に繋げていくことが継続した財務安定のためには不可欠である。

(2) 組織力向上への取り組み

本年度の高齢福祉部門の組織力向上について、経営会議・部長会議・運営会議・職員会議を中心に取り組んできたところではあるが、まだまだ課題は多く、係長とのコミュニケーションを活性化しその中で様々な問題に対して話し合える関係づくりが必要であると思われる。

- 1) 部長会議で栄養課長、事務管理係長との面談・話し合いを定期的に行ない、部門全体の部署として機能する様に組織力強化に努める。
- 2) 職員に心の健康づくり宣言をし、「心の健康づくり計画」を定める。管理者はそれに伴いメンタルケア管理者研修を受講する。
- 3) 部長による職員面談を実施する。
- 4) 栄養管理ソフトを更新し、給食管理・シフト管理・危機管理が3施設で組織的に行えるように整備した。
- 5) 運営会議、職員会議において組織力の向上について問題提示を行う。
- 6) LPガス会社と災害時の防災協定を締結し、災害時事業継続のためのLPガス供給を約束する。
- 7) 障がい部門（東京）と食器洗浄委託の契約更新を行う。

(3) 人財育成への取り組み

1) テキックスとの契約（ナラティブサイト）

人財育成・人材確保・人財育成を目的に、職員の思いや考えを物語風に伝え、職員がそれを共感・共有しながら職場の風土や環境を良いものにしていくという手法の「ナラティブサイト」を活用していくため（株）テキックスと高齢福祉部門とで契約を締結する。

2) サービス評価会議

10月には有識者の諸先生方にご出席していただき、第1回高齢福祉部門第三者サービス評価会議を開催し、専門的かつ現実的なご意見をいただく。

また、サービス・業務向上委員会に年4回、第三者委員として武蔵野大学の渡邊先生にご出席いただく。

3) サブスタッフ養成における人財育成効果

受託事業として行った「サブスタッフ養成」事業は、受講生に対し職員が主体となって講義・

OJTを実施するため、知識や技術の再確認を行う必要があり人財育成に役立っている。

4) フィットニングサポートの継続的实施

5) 地域との共生（地域包括的ケアの観点から）

- ①第2厨房の地域活動への無料開放。
- ②グリーンタウン小金井喫茶への地域住民のお誘い。
- ③認知デイ「家族懇談会」、地域密着運営推進会議（年2回）の実施。
- ④ボランティア懇談会・懇親会の実施、ボランティアのしおりの作成。

(4) サービスへの取り組み ※【利用者支援状況で取り上げ】

(5) 高齢福祉部門事業再編（建替え、桜SC土地問題）の動きについて

1) 桜町センター土地問題について

平成31年1月に30年間の土地無償賃借契約が終了となるため、今後の事業展開も見据えた小金井市との協議を法人本部と事前に打ち合わせたうえで、5月と10月に2回実施する。

- 2) 事業再編（通所介護から通所リハへ）・建替えに向けて、法人経営会議でプレゼンテーションを行う。

- 3) 事業再編・建替えに向けて、千葉県白井市にある社会福祉法人「けやきの里」(ユニット特養・通所リハ併設)の施設見学を実施する。

【利用者支援状況】

(1) リスクマネジメント

1) 介護事故

①左足打撲事故

6/16 送迎時に車椅子の固定ワイヤーが外れていることに気付かず、車椅子が動いたことによりご利用者の右足甲を打撲させてしまう事案が発生、受診介助を行い大事には至らず。

②離設事故

8/1 認知症対応型通所介護利用中のご利用者が、室内に見当たらなくなっていることに気付き施設内や近隣周辺を捜索するが発見出来ず。捜索願を依頼し対応していたところ、駅前の交番に保護されている旨の連絡が入る。

サービス・業務改善委員会の事例として取り上げ、見守り体制との対策を講じる。

③路面凍結による車両接触事故

1/27 道路の凍結した残雪に桜センター車両がスリップし、通りかかった他者の車との接触事故が発生。幸いケガはなかったが、タイヤチェーンを外した矢先の事故であった。今後、スタットレスタイヤへ交換を進めていく必要がある。

2) ヒヤリハット

通所介護係では、平成 29 年度も年間を通してヒヤリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。平成 29 年度に事例として挙げられたヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

送迎 (35 件)、入浴 (4 件)、転倒・移動 (25 件)、服薬 (9 件)、食事 (10 件)、
物品返却忘れ (7 件) 他 (25 件)

事例の共有・改善対応の結果、事故や苦情を未然に防いでいると考えられ、職員の責任感や緊張感のある対応にもつながっている。

3) 苦情

平成 29 年度も引き続きサービス業務向上委員会の中で苦情や事故・要望・賞賛事例を取り上げ、様々な角度から意見や評価をもらい、対応を振り返り、問題点を考え、改善につなげるという意味から有意義な会議になっており業務改善に役立っている。また平成 29 年度から年 4 回第三者委員の渡邊先生に出席いただき、第三者の立場からの的確な意見をいただいている。

平成 29 年度桜町センター内では、大きな苦情報告はなかったが、係内で発生しているちょっとした要望や苦情が皆で共有出来ておらず、報告として上がらないケースが見受けられる。サービスの質の向上や大きな苦情を発生させないためにも事例の報告が出来る仕組みづくりを考える必要がある。

4) 感染症対策

平成 29 年度も高齢福祉部門合同での感染症研修を 6 月に食中毒に関すること、9 月にインフルエンザ・ノロウイルスに関すること、在宅サービス部(桜町)として 10 月にノロウイルス発生時の実技演習研修を行った。

また各係においても、ミーティング内等で感染症発生時の対応に関する内部研修を行い、特に 10 月～3 月においては手洗いの徹底、マスクの着用、加湿器の設置、換気、体調の管理等を行い感染症を未然に防ぐ努力を行ったが、今年度は下記の感染症が発生してしまった。

①インフルエンザA型

通所介護事業にて、1/28～2/7にかけてインフルエンザA型が集団的に発生し、ご利用者様12名と職員3名が感染、市役所・保健所に報告し助言を受けインフルエンザ対応を行う。幸いにも重篤化した方はいなかった。

②ノロウイルス

1/10 栄養課職員1名から嘔吐・下痢症状がみられ、検査の結果ノロウイルス陽性と診断される。陰性となるまで、食堂・厨房への立ち入り禁止として対応する。

(3) サービスへの取り組み

施設重点取組事項

1) 通所介護・受託事業係

①予防・一般型通所介護、総合事業通所型サービス

平成29年度利用率101.4%で財務改善への取り組みが開始となつてから最も高い利用率となった。利用に繋げることが難しいケースに対しても趣味活動のみの参加や短時間利用からサービスを開始し、利用状況を見ながら提供時間を延ばしていくなど、個別のニーズに合わせて、家族やケアマネジャーに提案し、柔軟に対応できたことが要因だと思われる。

職員体制が厳しく午後の入浴体制を整えることができず、入浴希望のある新規の依頼を断るケースもあった。事業を計画通りに進めていく上で、人材の確保や離職者を出さない職場環境作りの必要性を強く感じた。職場の人間関係や業務ストレス軽減を図ること、モチベーションを維持させるために、常勤・非常勤を対象とした課長・係長による個別面談も実施することができなかつたため、平成30年度は日時を決めて計画的に実施する。

②認知症対応型通所介護

平成29年度利用率は71.7%で目標75%を達成することが出来なかつた。新規者数も4名しか受け入れることができず、昨年の22名と比べても大幅に減少していることが原因と思われる。年度中も新規利用者を獲得するため、ホームページやFAXでの空き情報の提供やパンフレットを持参し、居宅支援事業所への営業を実施したが、新規者の依頼には繋がることはなかつた。

今後に向けては、認知症型通所介護のサービス内容を見直し、ニーズの高い入浴サービスを中心とした内容に変更することを事業計画に盛り込んだ。ADLや利用回数に関わらず入浴依頼を必ず受けることで、入浴サービスを認知型通所介護のアピールポイントにし、新規利用者様の獲得を目指す。

離設など重大な事故に繋がるヒヤリハットや事故が目立った。相談員の連携がとれておらず、事故後に解決策が検討出来ていないことも多かつた。平成30年度は定期的に常勤MTGを開き、情報の共有や問題解決に向けた取り組みを強化していきたい。

③地域支援事業（小金井市受託事業）

<やすらぎ支援事業>

4包括主催の認知症サポーター養成フォローアップ研修にて、やすらぎ支援事業を広報後3名支援員にご応募いただき、9名のやすらぎ支援員が現在ご登録されている。ご利用者様は5名でご訪問開始から今年で4年目を迎えるご利用者様もみえる。年間2回の支援員懇談会を開催し、支援員間の交流や傾聴の様子、ご利用者様のケースを皆で共有しながら次の傾聴活動に活かしていただく機会になっている。

H30年度から「認知症支援推進員事業」に位置づけが明確になり、事業連携強化する体制を小金井市から提案され、今後の広報活動の幅が広がるように、支援員の皆様と励んでいきたい。

<家族介護者教室>

H29年度は、小金井市地域福祉課からのご提案があり、地域で活躍されている「翁味会」（高齢男性料理サークル）の方3名が講師となり『おとこの台所』と称しマリアテレジアキッチンで料理作りを実施。市報で公募し6名の参加をいただいた（男性4名、女性2名）。調理、会食も和やかな時間になった。地域資源の一つとして今後もキッチンが周知され、市民の方が集える場所として展開できればよい。

<サブスタッフ養成事業>

10月から3月にかけて、市内近隣に居住の65歳以上のお元気高齢者8名を対象に、介護予防に関する16回の講義と16回のOJTからなる「サブスタッフ養成事業」を実施。7名の方が卒業され、サブスタッフとして、今後桜町総合事業通所型サービスや地域資源の場での活躍が期待される。

この受託事業は平成29年度で2回目であったが、地域福祉を支える人材を育成していくという大きな目的を達成出来ている他、職員が受講生に直接講義やOJTを行うということから、職員の人財育成に繋がるという点でも大きな効果がみられている。

④グリーンタウン高齢者住宅管理

現在70世帯84名の入居者を対象に管理人7名で、巡回や安否確認の管理業務を行っている。

平成29年4月から管理業務が月曜～土曜の日中帯に変更になり（それまでは1年365日、24時間体制）、ご入居者様の混乱が心配されたが、夜間緊急対応のALSOK警備会社や小金井市との連携の効果もあり、大きな混乱や支障は生じなかった。

管理人とご入居者様との信頼関係は良好で、居宅介護支援事業所や介護保険事業者など、関係機関とも報告・連絡・相談を行うことで、安心した生活づくりに貢献できていると感じる。また、月1回グリーンタウン喫茶を実施し、管理外の地域に住まわれている高齢者も参加され、地域交流や地域資源の場となっている。

2) 訪問サービス係

①訪問介護

平成29年度は、新規の受け入れを積極的に行うことや、連携機関への連絡を密に取ることなどに力を入れてきた。その結果、月利用率が平均して98.8%と数値目標に近づくことができた。

従来から行っている月1回のヘルパー検討会では、情報交換や情報共有を行う中でご利用者様の変化に気づき、ニーズに応じたサービスに繋げていくように努めている。

また、技術向上のための勉強会を行うことで高いレベルのサービス提供を目指し取り組んでいる。

②訪問入浴介護

平成29年度は、予定日以外での祝日営業や空き状況の定期的なお知らせの送付な新規獲得のための方法を取り入れて数値目標の達成を目指したが、安定して利用されていた方の入院や終結及び新規利用者の継続利用に至らず、年間目標件数を達成することができなかった。

サービス自体は、どのような状態の方であっても必ず受け入れ、医療関係者との連絡を密に行うことで、ご利用者様やご家族様の意向に沿ったサービス提供ができています。終末期や医療分野に関する内部研修という場は設けていないが、ご利用者様その方のニーズに応じたケア方法は、日々の業務の中で検討し共有することでチーム力を高める結果になっている。

3) 栄養部

① 栄養管理係

- ・きた包括支援センターと連携し、在宅の低栄養高齢者に対して数日分の栄養補給食品を提供し体調改善に努める。
- ・施設給食協議会主催で「みんなの栄養展」を開催し、低栄養予防や嚥下調整食の紹介を行う。
- ・総合給食係と協働し、咀嚼・嚥下状態に適した食形態での配食提供を実施する。
- ・サブスタッフ養成事業では、高齢者に必要な栄養と摂食嚥下に関する講義を行い、多摩在宅NSTでは、在宅で働く他職種の方に対して食欲不振や認知症による食事摂取量低下、低栄養の予防について講義を行う。
- ・さくら配食における咀嚼・嚥下調整食の提供を運営会議で検討する。
- ・安定した給食管理・配食管理を行うために、栄養ソフトを新規導入する。
- ・週1回さくらカフェを開催し、低栄養予防料理の提案や食に関する相談を行う。
- ・桜町認知症デイと協働し、ご利用者様の食事摂食状況・摂食嚥下・口腔ケアの状態を含む食環境のアセスメントを行い、介護支援専門員に情報提供する。
- ・桜町訪問介護と協働し、訪問介護ご利用者様の食形態状況に関する調査を行う。

②総合給食係

平成29年度は、今まで以上に施設と在宅が協力し、現場業務を安定・向上させる事が出来た。しかし業務の効率化や合理化・標準化には至っておらず、課題共有のための時間確保が必要となっている。

栄養ソフトの新規導入により、献立・料理データや事務の統一に向けた話し合いが持たれるようになり、業務の効率化・適正化に繋がっている。

実績に関して、さくら配食では最低平均68食を目標として一年間臨んだ結果、平均で73.2食(104.5%)の実績となった。平成29年度だけでなく、平成28年度から連続して目標達成が出来ている事は評価したい。

平成29年度の業務内容を振り返ると、単に食事を提供するという事だけでなく個別の対応に尽力した年度になったと感じる。時間調整や配食方法、容器の個別対応・食事形態・食関連のフォロー等が挙げられる。栄養管理係と連携し、配食のご利用者様宅まで足を運びアセスメントも行った。平成30年度はさらに個別対応力を高めるべく、施設と在宅が連携し食事サービスの提供に努めていきたい。

4) 居宅介護支援係

ケアプラン月155件の目標を立て事業に取り組んだ結果、年間1,932件、月平均161件で、5人体制になってから最も高い利用実績となった。職員の異動もなく安定した職員体制のもと、新規の受け入れが滞りなくできたことなどが要因のひとつと思われる。

特定事業所加算要件の年間研修計画に基づく研修については必ずしも計画通りとはいかなかったが、受講後、必ず伝達研修を行い、学びの機会を多く持てた。地域の様々な

団体が主催する連絡会や勉強会などにも可能な限り誰かが出席するようにして、自己研鑽や情報収集、顔の見える関係づくりの努力はできたと思われる。

法人内連携については法人内のサービスにつなげようとしても受け入れを断られることもあり、双方向的な目標設定が必要だと感じた。定例会議で法人内サービスについてご利用者様等からの声を取り上げた際に、それをいつ・だれが・どのように法人内サービスに伝えればよいのか迷うことも多く、効果的なサービス改善につなげることができなかった。

医療との連携については入院時の情報提供や退院時のカンファレンスへの出席など徹底されてきた。しかし、それだけでは不十分ということで、平成 30 年度からは特に入院前からの日常的な医療連携が求められているので、さらに積極的な取り組みが必要になると考えている。

業務の標準化や効率化については、その目的を明確にすることができず、日々の業務にも追われ、不十分な取り組みだった。平成 30 年度は働きやすい職場になるよう標準化や効率化の取り組みについて活発に検討できるようにしたい。

5) 地域包括支援係 (小金井きた地域包括支援センター)

- ・地域住民による地域課題について協議する“みんなの安心ささえ愛ネット”を共に立ち上げ、定例会で話し合いの場を持った。
- ・“医療と介護の連携会議”他の研修・会議に参加し多職種の連携に取り組む事が出来た。
- ・“地域とつながる応援ブック”の完成・配布により、地域住民や他機関との情報共有・連携・つながりのきっかけとして有効に活用した。
- ・きた圏域内で、12月までに12回の“認知症サポーター養成講座”を開催実施した。また、他の認知症地域支援推進員と共に“フォローアップ講座”を開催した。
- ・既存の自主グループで定期的に会場確保が難しい問題に対し別に協力が得られる会場を確保し新たに自主グループとして立ち上げを行った。居住者数が多い集合住宅の敷地内で新規立ち上げ、通いやすい場所づくりができた。
- ・認知症の疑いがある利用者の相談に対して、桜町病院の相談員を通して適切に相談する事ができた。
- ・“認知症施策事業推進委員会”による認知症安心ガイドブックの普及活動を通して連携をする事ができた。
- ・相談者に対して適切な相談援助サービスを提供することができた。
- ・相談業務の標準化に対しては個別相談が多く標準化する事は難しいことを理解した。

<平成 29 年度事業実績件数>

① 総合相談・支援業務	2,841 件
② 虐待・権利擁護	116 件
③ 包括的・継続的ケアマネジメント	182 件
④ 申請代行等	292 件
⑤ 予防給付介護予防ケアマネジメント	1,300 件
⑥ 総合事業ケアマネジメント	1,647 件
⑦ 地域介護予防活動支援事業	9 グループ
⑧ 認知症サポーター養成講座開催	12 回

2017年度 在宅サービス部 利用実績集計表 (桜町高齢者在宅サービスセンター)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計・平均	
通所介護	通所介護 営業日数	25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	1日 定員30名	750	720	780	780	810	780	780	780	750	720	720	810	9,180	
	実利用者人数	115	119	120	121	122	124	118	116	118	118	113	115	118	
	延利用者数合計	722	743	855	831	847	810	814	801	772	685	642	783	9,305	
	延利用者数(一般)	591	588	707	683	674	641	652	641	600	549	500	611	7,437	
	延利用者数(予防)	55	49	50	25	20	7	0	0	0	0	0	0	206	
	延利用者数(現行相当型)	47	65	59	58	78	73	78	70	69	52	51	47	747	
	延利用者数(市基準型)	30	41	40	65	75	89	84	90	103	84	91	125	917	
	登録者数	130	132	136	137	137	132	136	134	137	136	134	134	135	
	新規者数	8	6	5	2	3	3	4	0	4	0	1	2	38	
	終結者数	0	4	1	1	3	6	0	2	1	1	3	2	24	
	月利用率	96.3%	103.2%	109.6%	106.5%	104.6%	103.8%	104.4%	102.7%	102.9%	95.1%	89.2%	96.7%	101.4%	
	認知症対応型 営業日数	25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	1日 定員24名	600	576	624	624	648	624	624	624	600	576	576	648	7,344	
	実利用者人数	54	50	47	49	47	45	45	45	45	43	42	39	46	
	延利用者数	469	422	440	449	485	464	470	463	441	393	364	402	5,262	
	登録者数	54	54	54	51	49	45	45	45	46	45	44	41	48	
	新規者数	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	4	
	終結者数	2	0	0	4	2	4	1	1	0	1	1	3	19	
	月利用率	78.2%	73.3%	70.5%	72.0%	74.8%	74.4%	75.3%	74.2%	73.5%	68.2%	63.2%	62.0%	71.7%	
	訪問入浴	訪問入浴 営業日数	25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306
		目標件数 5.0件/日	125	120	130	130	135	130	130	130	125	120	120	135	1530
延入浴件数		120	109	130	127	113	104	128	122	106	99	88	101	1347	
延清拭件数		2	5	0	2	0	0	0	2	2	2	2	2	19	
登録者数		28	28	28	27	26	26	26	26	26	22	20	18	25	
新規者数		2	1	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	12	
終結者数		2	1	2	3	1	1	1	1	4	2	2	2	22	
月利用率		97.6%	95.0%	100.0%	99.2%	83.7%	80.0%	98.5%	95.4%	86.4%	84.2%	75.0%	76.3%	89.3%	
訪問介護 営業日数		25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
目標件数 100件/週		456	439	476	476	494	476	476	476	458	439	439	494	5599	
延派遣件数	436	464	487	424	471	469	478	446	479	443	436	497	5530		
登録者数	64	64	65	66	67	68	68	68	68	70	71	70	67		
新規者数	2	1	1	1	2	1	3	1	1	2	1	0	16		
終結者数	0	1	1	0	1	1	2	2	0	0	0	1	9		
月利用率	95.6%	105.7%	102.3%	89.1%	95.3%	98.5%	100.4%	93.7%	104.6%	100.9%	99.3%	100.6%	98.8%		
居宅支援	介護プラン作成件数 実績	161	164	165	163	164	162	160	157	157	158	158	163	161	
	155/月 新規	6	5	6	2	2	2	2	2	1	3	5	3	39	
	155/月 終結	3	0	2	3	3	2	1	5	1	0	1	0	21	
	法人紹介率 一般通所 合計	61.5%	59.4%	59.2%	60.0%	57.6%	59.0%	58.8%	57.2%	56.7%	56.0%	56.6%	57.8%	58.3%	
	桜町	46.9%	44.8%	45.9%	47.0%	45.5%	47.0%	45.4%	43.9%	44.3%	44.0%	43.4%	44.5%	45.2%	
	本町	18.8%	17.7%	16.3%	17.0%	16.2%	16.0%	17.5%	16.3%	15.5%	15.0%	15.2%	15.2%	16.4%	
	認知通所 合計	96.7%	96.6%	96.4%	96.4%	96.3%	96.4%	96.6%	96.3%	96.3%	92.3%	92.6%	92.9%	95.5%	
	桜町	76.7%	72.4%	71.4%	71.4%	70.4%	67.9%	69.0%	66.7%	66.7%	65.4%	59.3%	60.7%	68.2%	
	本町	36.7%	31.0%	32.2%	32.2%	29.6%	35.7%	34.5%	37.0%	33.3%	34.6%	37.0%	39.3%	34.4%	
	訪問介護	25.8%	25.0%	27.4%	25.4%	25.4%	23.8%	26.6%	26.2%	23.4%	26.2%	24.5%	24.3%	25.3%	
訪問入浴	66.7%	60.0%	60.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	33.3%	33.3%	33.3%	48.9%		
訪問看護	27.6%	33.3%	33.3%	33.3%	38.5%	35.7%	39.3%	35.7%	32.2%	29.6%	30.8%	26.7%	33.0%		
短期入所	22.7%	23.8%	30.0%	19.1%	26.1%	21.1%	38.1%	35.0%	29.4%	27.8%	20.0%	27.8%	26.7%		
認定調査件数 他市含 5/月	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	57		
包括支援	介護予防・総合事業プラン件数計 300件/月	294	295	289	287	280	285	288	291	304	297	290	282	3482	
	直営件数 190件/月	201	194	193	190	197	196	195	189	180	177	174	165	2251	
	直営新規件数	5	4	1	3	4	2	1	0	0	1	1	0	22	
	直営月利用率	105.8%	102.1%	101.6%	100.0%	103.7%	103.2%	102.6%	99.5%	94.7%	93.2%	91.6%	86.8%	98.7%	
	委託件数 110件/月	88	89	96	90	83	89	93	102	108	119	116	117	1190	
	委託新規件数	0	5	4	4	1	6	7	6	7	13	2	5	60	
	委託月利用率	80.0%	80.9%	87.3%	81.8%	75.5%	80.9%	84.5%	92.7%	98.2%	108.2%	105.5%	106.4%	90.2%	
	自由配食 営業日数	24	24	26	25	26	25	25	24	24	23	23	26	295	
栄養事業	目標食数 70食/日 (最低 68/日)	1,680	1,680	1,820	1,750	1,820	1,750	1,750	1,680	1,680	1,610	1,610	1,820	20,650	
	実人数	116	117	119	117	114	118	117	119	119	120	119	119	118	
	延食数	1,700	1,708	1,962	1,890	1,897	1,883	1,843	1,722	1,735	1,694	1,689	1,872	21,595	
	登録者数	127	127	131	132	127	131	130	130	129	131	131	126	129	
	新規者数	3	2	5	2	2	4	4	0	2	4	1	0	29	
	終結者数	3	2	1	1	7	0	5	0	3	2	1	5	30	
	自由配食月利用率	101.2%	101.7%	107.8%	108.0%	104.2%	107.6%	105.3%	102.5%	103.3%	105.2%	104.9%	102.9%	104.5%	
	給食数 (通所昼)	1,063	980	1,105	1,095	1,141	1,130	1,069	1,122	1,029	934	849	948	12,465	
	利用者実人数	6	6	6	5	4	5	6	7	6	6	6	6	6	
やすらぎ支援	延派遣回数	11	16	17	15	12	17	10	12	12	13	12	12	159	
	支援員登録数	7	7	7	7	7	7	7	7	9	8	10	10	8	
	ボランティア総回数(生活)	77	76	77	74	76	91	94	90	90	89	87	95	1,016	
	ボランティア 総回数(教養)	35	33	44	31	25	42	31	29	32	22	24	38	386	

上段:人(件)
下段:千円

(標準執行率 100.00%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
一般 ディ	人数予算	28人	700	672	728	728	756	728	728	728	700	672	756	8,568	
	実績		723	743	856	786	827	811	817	801	774	690	782	9,253	
	差額		23	71	128	58	71	83	89	73	74	18	-29	26	685
	達成率		1.03	1.11	1.18	1.08	1.09	1.11	1.12	1.10	1.11	1.03	0.98	1.03	1.08
認知 ディ	人数予算	18人	450	432	468	468	486	468	468	468	450	432	486	5,508	
	実績		469	422	440	449	485	464	471	463	441	393	364	402	5,263
	差額		19	-10	-28	-19	-1	-4	3	-5	-9	-39	-68	-84	-245
	達成率		1.04	0.98	0.94	0.96	1.00	0.99	1.01	0.99	0.98	0.91	0.84	0.83	0.96
訪問 入浴	人数予算	5.0人	125	135	130	130	135	130	130	130	125	120	135	1,545	
	実績		122	114	130	129	113	104	128	124	108	101	90	101	1,364
	差額		-3	-21	0	-1	-22	-26	-2	-6	-17	-19	-30	-34	-181
	達成率		0.98	0.84	1.00	0.99	0.84	0.80	0.98	0.95	0.86	0.84	0.75	0.75	0.88
訪問 介護	件数予算	週120件	480	480	480	480	480	480	480	480	480	480	480	5,760	
	実績		436	464	487	424	471	469	478	446	479	443	436	497	5,530
	差額		-44	-16	7	-56	-9	-11	-2	-34	-1	-37	-44	17	-230
	達成率		0.91	0.97	1.01	0.88	0.98	0.98	1.00	0.93	1.00	0.92	0.91	1.04	0.96
ケア マネ	件数予算	155件	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	1,860	
	実績		159	164	163	166	163	162	162	158	152	162	158	163	1,932
	差額		4	9	8	11	8	7	7	3	-3	7	3	8	72
	達成率		1.03	1.06	1.05	1.07	1.05	1.05	1.05	1.02	0.98	1.05	1.02	1.05	1.04
ケア マネ(予防)	件数予算	5件												0	
	実績		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	差額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	達成率														
ア マ ネ(認定調査)	件数予算	5件	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	
	実績		6	5	5	5	5	6	5	1	5	5	5	5	
	差額		1	1	0	0	0	1	0	-4	0	0	0	-1	
	達成率		1.20	1.20	1.00	1.00	1.00	1.20	1.00	0.20	1.00	1.00	1.00	1.00	0.98
きた 包括	件数予算		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3,600	
	実績		288	299	294	294	287	291	294	291	291	297	293	283	3,502
	差額		-12	-1	-6	-6	-13	-9	-6	-9	-9	-3	-7	-17	-98
	達成率		0.96	1.00	0.98	0.98	0.96	0.97	0.98	0.97	0.97	0.99	0.98	0.94	0.97
栄 事(デイ食費)	食数予算	38食	950	912	988	988	1,026	988	988	988	950	912	1,026	11,628	
	実績		1,063	980	1,105	1,095	1,141	1,130	1,069	1,122	1,029	934	849	948	12,465
	差額		113	68	117	107	115	142	81	134	79	22	-63	-78	837
	達成率		1.12	1.07	1.12	1.11	1.11	1.14	1.08	1.14	1.08	1.02	0.93	0.92	1.07
栄 事(自由配食)	食数予算	68食	1,632	1,632	1,768	1,700	1,768	1,632	1,700	1,632	1,700	1,564	1,768	20,060	
	実績		1,700	1,708	1,962	1,890	1,897	1,883	1,843	1,722	1,735	1,694	1,689	1,872	21,595
	差額		68	76	194	190	129	251	143	90	35	130	125	104	1,535
	達成率		1.04	1.05	1.11	1.11	1.07	1.15	1.08	1.06	1.02	1.08	1.08	1.06	1.08
合計	人数予算		20,859	20,512	21,540	21,480	22,097	21,419	21,479	21,419	20,921	20,241	22,106	254,313	
	実績		22,277	21,391	23,271	22,744	23,491	22,828	22,817	22,857	21,670	20,749	19,378	20,953	264,426
	差額		1,418	879	1,731	1,264	1,394	1,409	1,338	1,438	749	508	-862	-1,153	10,113
	達成率		1.07	1.04	1.08	1.06	1.06	1.07	1.06	1.07	1.04	1.03	0.96	0.95	1.04

【施設整備状況】

(1) 概況説明

設置後 27 年が経過しており、ボイラー・ポンプ類など設備・備品に様々な面で修繕・メンテナンスの必要が出ている。また、車両の老朽化も目立っており部品交換や故障が多く、施設全体の現状を把握し必要箇所の優先度を決め計画的に整備を進めていく必要がある。

(2) 主な固定資産購入 (固定資産以外も含む)

● 平成 29 年 7 月	2 階女子更衣室 エアコン設置	156,600 円
● 平成 29 年 12 月	電動機付自転車	99,980 円
● 平成 30 年 3 月	L A N フォルダ ー 2 (ハードディスク)	182,088 円
● 平成 30 年 3 月	包括支援センターパソコン	264,330 円
● 平成 30 年 3 月	車両用デジタル無線機 (3 台) 購入	293,220 円

(3) 主な修繕費

● 平成 29 年 6 月	温水ポンプつなぎ部分交換	133,920 円
● 平成 29 年 7 月	真空式温水ヒータ溶解栓他修理	248,400 円
● 平成 29 年 11 月	食器洗浄機修理	81,151 円
● 平成 29 年 12 月	真空式温水ヒータ抽気ポンプ交換	426,600 円

【その他】

(1) 労働災害発生状況

- 平成 29 年 4 月居宅介護支援事業所職員が、自転車で訪問時に雨で路面が滑り転倒
- 平成 29 年 6 月配達宅配員が、宅配中に左手指第 2 指を車のドアに挟む
- 平成 29 年 6 月用務員が作業中、のこぎりで左手指第 2 指を裂傷
- 平成 29 年 8 月居宅介護支援事業所職員が、自転車で訪問時転倒し左臀部の打撲
- 平成 30 年 2 月訪問入浴介護員が、センター玄関前にて足首をひねり捻挫

(2) 事業者指定更新

- 平成 29 年 12 月「介護予防・日常生活支援総合事業」における通所介護・訪問介護の事業者指定申請を小金井市に行ない認可される。(指定期間平成 30 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日)
- 平成 29 年 10 月介護予防訪問入浴介護の指定更新申請を東京都に行ない認可される。(指定期間平成 30 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日まで)
- 平成 29 年 12 月指定介護予防支援事業所(きた包括支援センター)の指定更新更新手続きを小金井市に行ない認可される。(指定期間平成 30 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日まで)

(3) 小金井きた包括支援センター 小金井市実地検査

- 平成 30 年 1 月 26 日小金井市の実地検査を受ける。記録の書き方や整備の方法等について一部分に対して指導があり、改善報告書を提出する。

【教育研修一覧】

(部署名 通所介護・桜町センター全体)

日付	分類	研修内容	場所	氏名
4/14	その他	小金井市事業者連絡会総会	小金井商工会議所	鈴木 治実
4/25	地域支援	サブスタッフ養成事業報告会	小金井市役所	鈴木 治実
5/16	医療と介護の連携	第1回医療・会議 多職種連携研修会	小金井市富地楽器ホール	星野 廣平
5/26	その他	小金井市アドバイザー事業研修	つきみの園	星野 廣平
6/5	栄養	山梨障がい部門視察研修	富士ヨハネ学園	山口 有昭
6/8	救急	AED実技研修	小金井消防署	上地 美也子
6/13	介護	デイサービスの基本を学ぼう	立川市立川商工会議所	藤巻 登己
6/14	防災	自衛消防訓練新任者研修	小金井消防署	古賀直人・福井典子
6/19～20	人財育成	カトリック老人施設関東大会	那須	鈴木・田丸・長津・中川
6/22,28	感染症	高齢福祉部門合同感染症研修(食中毒)	桜町センター	職員多数
7/24	地域支援	サブスタッフ養成事業市民説明会	小金井商工会議所	星野 廣平
8/3	人財育成	法人合同研修「問題解決の考え方と方法」	戸塚ホール	6名参加
8/29	地域支援	サブスタッフ養成勉強会	小金井市役所	星野 廣平
9/8	地域支援	サブスタッフ養成勉強会	小金井市役所	鈴木 治実
9/20	その他	小金井事業者連絡会(通所会)	あんず苑	鈴木 治実
9/26、27、28	感染症	高齢福祉部門合同感染症研修(インフル・ノロ対応)	桜町センター	職員多数
10/12	その他	小金井事業者連絡会(認知通所会)	桜町センター	三浦 さとみ
10/24	栄養	「食支援」に関する法人内合同研修	戸塚ホール	長津 宏史
11/27	地域支援	サブスタッフ養成勉強会	小金井商工会議所	鈴木 治実
12/6	人財育成	法人合同研修「障がい山梨相談支援について」	戸塚ホール	5名出席
12/19	その他	「総合事業」について市と事業所との話し合い	小金井商工会議所	鈴木 治実
1/17	人財育成	法人合同研修「人材について」	戸塚ホール	3名出席
1/19	組織	施設見学(さつきの里)	千葉県白井市	鈴木 治実
1/30	管理者	「メンタルヘルス」管理者研修	ヨハネホーム	鈴木 治実
2/7、8	管理者	福祉職員キャリアパス対応研修(管理者編)	茗荷谷	鈴木 治実
2/9	地域支援	サブスタッフ養成検討会	小金井市役所	鈴木 治実
2/15	組織	法人合同研修「ハラスメントについて」	戸塚ホール	4名出席
2/22	組織	法人合同研修「組織の一員としての知識」	戸塚ホール	5名出席
3/8	介護保険	総合事業請求事務説明会	小金井商工会議所	志藤・丸田・土井
3/15	介護	高齢福祉部門合同研修「腰痛について」	桜町センター	介護員多数
3/22	介護保険	介護報酬説明会	ルネ小平	遠藤・丸田・土井

(部署名 訪問介護)

日付	分類	研修内容	場所	氏名
4/14	介護	ベッド⇄車いすの移乗、排泄介助(オムツ交換)	センター内	織茂、丸田、大久保、服部、森田、平松、蛭本、後藤、坂田、川崎
5/19	介護	ベッド⇄車いすの移乗、顔の清拭	センター内	織茂、丸田、大久保、服部、森田、坂田、川崎
6/9	介護	熱中症予防対策	センター内	織茂、丸田、大久保、森田、平松、蛭本、坂田、川崎
6/9	感染症	手洗い研修	センター内	織茂、丸田、大久保、森田、平松、蛭本、坂田、川崎
9/15	介護	ごみ屋敷の取り組みの現状と訪問介護のアプローチ	センター内	織茂、丸田、大久保、服部、森田、平松、蛭本、後藤、坂田、川崎
9/15	認知症	認知症高齢者の介護	センター内	織茂、丸田、服部、森田、平松、坂田、川崎
10/13	介護	「口から食べる」を支援するために	センター内	織茂、丸田、森田、平松、坂田、川崎
1/12	リスクマネジメント	緊急時対応マニュアルの確認	センター内	織茂、丸田、大久保、服部、森田、平松、蛭本、後藤、坂田、川崎
2/15	その他	講演会「柳田邦夫いのちを語る」	宮地ホール	丸田、川崎
2/16	その他	講演会「柳田邦夫いのちを語る」の参加報告	センター内	織茂、丸田、森田、後藤、坂田、川崎
3/1	介護	苦情対応について	センター内	織茂、丸田、服部、森田、平松、蛭本、後藤、坂田、川崎

(部署名 桜町ケアマネジメントセンター)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
4/10	認知症	第6階知池包括ケア講演会(医師会)	宮地楽器ホール	高野 満知子
5/27	その他	高次脳機能障害と家族の支援	ルネ小平	古川 洋美
6/15	認知症	包括レベルアップ研修(若年性認知症)	萌木ホール	塩田美紀・金丸直子
7/19	認知症	三市・認知症高齢者と家族支援のための事例研修	サンメール尚和	金丸 直子
8/3	その他	法人合同研修(問題解決の考え方と方法)	戸塚ホール	古川 洋美
8/16	虐待防止	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	調布グリーンホール	金丸 直子
9/15	認知症	講演会・認知症になっても安心して暮らせる社会	宮地楽器ホール	高野 満知子・古川洋美
9/21	小地域ケア会議	高齢者の運転について考える(きた包括)	社協会議室	遠藤直美・高野満知子
9/24	その他	東京都主任介護支援専門員更新研修~12/17 全8回	エムワイ会議室 高田馬場	金丸 直子
10/25	小地域ケア会議	ボランティアについて(にし包括)	社協会議室	遠藤 直美
10/26	医療	医療ソーシャルワーカーのお仕事	貫井北町センター	金丸 直子
10/28	その他	介護支援専門員のストレスマネジメント	府中の森芸術劇場	金丸 直子
11/1	その他	リ・アセスメントシート①	戸塚ホール	金丸 直子・古川洋美
11/13	医療	在宅医療勉強会 事業所との連携について	ひがこメディカルケア	遠藤 直美
11/16	終末期	終末期の全身状態の変化を知る(市医師会)	医師会館	高野満知子
11/29	医療	神経難病の基礎知識と治療の考え方	多摩府中保健所	古川 洋美
12/2	医療	終末期ケア 利用者の意思決定支援	ヒューリックカンファレンス・江戸川区	金丸 直子
12/11	医療	在宅医療勉強会 ②	ひがこメディカルケア	金丸 直子
12/13	その他	リ・アセスメントシート②	戸塚ホール	金丸直子・古川洋美
1/17	医療	神経難病ってどんな病気?	医師会館	古川・遠藤・高野
1/25	終末期	平穏死/改定個人情報保護法	ルネ小平	金丸 直子
1/31	虐待防止	改めて学ぶ「虐待とは?」	貫井北町センター	遠藤 直美
2/7	その他	平成29年度介護認定調査員現任研修	萌木ホール	金丸 直子
2/9	その他	リ・アセスメントシート③	戸塚ホール	古川・遠藤・高野
2/15	医療	ケアマネ勉強会 医療連携について	戸塚ホール	高野・遠藤・金丸
12/17~3/2	その他	東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ 全5回	ルミエール府中	塩田美紀
3/15	その他	みんなで行う事例検討会	商工会館	古川 ひろみ
3/19	その他	リ・アセスメントシート④	戸塚ホール	古川・金丸
3/24	その他	2018年診療報酬改定・介護報酬改定	全電通労働会館 千代田区	金丸 直子

(部署名:小金井きた地域包括支援センター)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
6/12	虐待	高齢者虐待事例検討会	緑寿園研修センター	黒松 聡子
6/26、27	包括	東京都地域包括支援センター初任者研修 武蔵野市・小金井市・西東京市三市合同研修会	東京都保健福祉財団	福井 典子
7/7	包括		武蔵野スイングホール	黒松聡子・増田敏子
7/11	虐待	権利擁護テーマ別実践研修(第1回)	東京都保健福祉財団	増田 敏子
7/19、20	生活支援	東京都生活支援コーディネーター研修	東京都保健福祉財団	黒松 聡子
7/20、21	包括	東京都地域包括支援センター初任者研修	東京都保健福祉財団	中川 麻砂子
8/9	介護予防	東京都介護予防推進会議	武蔵野スイングホール	黒松 聡子
08/17、18	認知症	認知症地域支援推進員研修	TKP汐留	中川 麻砂子
8/28	認知症	認知症コーディネーター研修	ベルサール新宿 桜町センター	中川 麻砂子
9/1～8		施設内新任職員研修	本町センター	成田 晴美
9/5	介護予防	総合事業従事者向け介護予防研修総論	三鷹産業プラザ	黒松 聡子
9/23、24	認知症	認知症初期集中支援チーム員	ベルサール汐留	中川 麻砂子
10/4	介護予防	総合事業従事者向け介護予防研修実践 平成29年度第2回	三鷹産業プラザ	黒松 聡子
11/1	認知症	東京都キャラバン・メイト養成研修	東京都社会福祉 保健医療研修センター 9/1に産業芸術 サンライズホー	福井 典子
11/24	介護予防	介護予防でつながる！ひろがる！大交流会		福井 典子
11/28	その他	第2回 Tokyo EAT 研修会 専門医から学ぶ神経難病の基礎知識と 治療の考え方	宮地楽器ホール	増田 敏子
11/29	その他		多摩府中保健所	福井 典子
11/16	介護予防	総合事業従事者向け介護予防研修WS	三鷹産業プラザ	黒松 聡子
12/4	虐待	高齢者虐待事例検討会	緑寿園研修センター	黒松 聡子
12/26	介護予防	総合事業従事者向け介護予防研修WS	三鷹産業プラザ	黒松 聡子
2/6	介護予防	総合事業従事者向け介護予防研修WS 平成29年度 東京都主任介護支援専門員 研修	三鷹産業プラザ	黒松 聡子
10/7～2/3	介護支援専門員			増田 敏子
2/15	施設内	「ハラスメントの防止」～心理学の視点から～	戸塚ホール	増田 敏子
2/13	介護予防	東京都介護予防推進会議 平成29年度 第1回	武蔵野スイングホール	黒松 聡子
2/22	介護予防	地域包括支援センター職員勉強会	小金井市商工会館	黒松聡子・高野美子 ・中川麻砂子・福井典子
12/28～3/2	そのほか	平成29年度東京都介護支援専門員研修課程2	ルミエール府中	中川 麻砂子
3/1	認知症	若年性認知症の人を支える	有楽町朝日ホール	中川 麻砂子
3/15	介護支援専門員	平成29年度小金井市介護支援専門員新任研修 「養護者による高齢者虐待対応研修(応用研修 B)」	萌え木ホール	高野美子・増田敏子
2/13～14	虐待		東京都福祉保健 財団19階多目的	高野 美子
2/22	法人合同研修	「組織の一員としての基礎知識」	戸塚ホール	高野 美子
11/28	後見	成年後見の基本知識	前原暫定	高野 美子・福井 典子
3/15	施設内	3施設合同 腰痛予防研修	桜町センター1F	福井 典子
3/16	介護予防	平成29年度 第2回 地域包括支援センター職員勉強会	小金井市役所801会 議室	増田敏子・高野美子・成 田晴美・中川麻子
11/1～4/19	介護支援専門員	リ・アセスメントシート研修	戸塚ホール	増田敏子・高野美子・成 田晴美・中川麻子

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

【平成29年度利用状況報告】

1. 事業別利用率状況（3か年の推移）

種別	定員	1日平均利用者数	利用率（H29）	利用率（H28）	利用率（H27）
通所介護（一般・予防）	25名	21.3名	92.7%	94.5%	93.1%
認知症型通所介護	12名	10.0名	83.7%	87.9%	80.0%
食の自立支援事業	80名	88.0名	110.0%	101.0%	105.6%

（1）通所介護（予防型・一般型）

①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	33	58	339	282	161	24	18	915
割合	3.6%	6.3%	37.0%	30.8%	17.6%	2.6%	2.0%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	121	429	2576	2131	1592	166	64	7079
割合	1.7%	6.1%	36.4%	30.1%	22.5%	2.3%	0.9%	100.0%

②基本属性

平均年齢 87.5歳（最高100歳、最低62歳）
 男女比率 男性29.6%：女性70.4%
 利用登録者 要介護者 74名 要支援者 7名 合計 81名
 新規利用者 24名 主な利用理由（在宅での自立生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望等）
 廃止利用者 19名 主な廃止理由（逝去・施設入所・転居・他サービス利用）

（2）認知症対応型通所介護

①要介護度別実人数・延べ人数

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	0	0	29	50	69	69	93	310
割合	0.0%	0.0%	9.4%	16.1%	22.3%	22.3%	30.0%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	0	0	299	474	803	822	677	3075
割合	0.0%	0.0%	9.7%	15.4%	26.1%	26.7%	22.0%	100.0%

②基本属性

平均年齢 82.4歳（最高95歳、最低68歳）
 男女比率 男性25%：女性75%
 利用登録者 要介護者 27名 要支援者 0名 合計 27名
 新規利用者 12名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）
 廃止利用者 10名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	平成 29 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 30 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名							1名		1名
生活相談員	5名		5名		1					4名		4名
介護職員		12名	12名			1	3	1	3		10名	10名
看護職員		4名	4名								4名	4名
栄養士調理員		4名	4名								4名	4名
宅配員		12名	12名			3	1	3	1		14名	14名
食の自立 Co		1名	1名								1名	1名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		6名	6名			1	1	1	1		6名	6名
清掃員		2名	2名								2名	2名
合計	6名	42名	48名		1	5	5	5	5	5名	42名	47名

※但し、非常勤職員には兼務者（宅配員と介護員兼務）が2名いる。したがって、非常勤総数（実数）はH29.4.1、H30.3.31ともに40名となる。

【施設運営状況】

1. 指定管理協定更新の2年目

2017（平成29）年度は小金井市の指定管理協定の第4期（5か年：2011年度～2015年度）を経て、第5期（5か年：2016年度～2020年度）の2年目であった。

本町センターは、桜町聖ヨハネホーム、桜町センターとともにSWOT分析とクロス分析を行い、これにもとづく第3期中期経営計画【2017（平成29）～2019（平成31）年度】を策定した。

高齢福祉部門では財務改善を最優先・最重要課題として昨年度まで取り組み、黒字化の継続を安定化させてきたが、第3期中期経営計画では桜町聖ヨハネホーム・桜町センターの建替えや事業再編を睨み、少なくともむこう3年間はヨハネ会高齢福祉部門の人財育成を最重要課題とした。

2017（平成29）年度、本町センターでは、この中期経営計画を単年度事業計画に落とし込み、5つの重点取り組み目標と目標達成の方法案を策定し取り組んだ。

2. 財務報告

2015（H27）年度制度改定は、通所介護サービス（一般型・認知症対応型）の介護報酬費の引き下げ率が平均9.5%にも及んだ。また、本報酬引き下げを補うかのような加算には様々な取得要件があり、事実上加算は取得しにくいものとなっており、通所介護事業経営には向かい風となる改定であった。

これに対し、高齢福祉部門では2015年度に一旦その役目を終えた財務改善プロジェクトのながれを引き続き活かし、運営会議で各事業の利用率等についてモニタリングを継続している。

その結果、本町センターの利用率は予防・一般型通所介護で92.7%（前年度比-1.9pt）、認知症対応型通所介護で83.7%（前年度比-1.6pt）という結果を残した。

ちなみに、都下単独型デイサービス事業所の平均利用率は79.1%。定員規模別（30人超40人

以下)の平均利用率は78.3%である¹ことから、前年度比でマイナスポイントではあるが、当センターの利用率は都内でも高水準にあると言える。

その結果、本年度(2017(H29)年度)決算は、資金収支会計で当期資金収支差額合計(運転資金)は借入金なく、907万3千円の黒字。こちらは前年度比で2.8ptと逆に増えている。

また、事業活動収支会計は、当期活動増減差額(1年間の経営成績)は、291万5千円の黒字であった。(資金収支差額と事業収支差額の差は、主に賞与引当金、減価償却費、積立金取崩、退職給付費関係による影響が大きい。)事業活動収支会計における介護保険事業収益は前年度比98.9%と▲1pt下がって(▲約106万円)1億5,200万円となっている。僅かに前年度に及ばなかった理由としては、5月に流行したヒトメタニューモウイルスによる利用率の一時的減少、認知症デイにおけるフィッシングサポート(滞在時間短縮ケース増)などが影響したと思われる。

一方、支出の面では人件費が前年度比で10.3pt上がり、1,047万5千円増となっている。(人件費率は昨年度65.6%、本年度は73.2%である。)なお、人件費増は、常勤退職者の退職給付費と賞与引当金繰入、常勤生活相談員配置による自然増による。

(1) 組織規程にもとづく新たな組織運営の定着に向けて

- 部門経営会議には課長、運営会議には係長以上の職員の参加を義務付け、経営課題の共有と対策検討を定例化している。
- 本町センターでは、長らく係長代行職を務めてきた予防デイ・一般デイの生活相談員(正職員)が私事都合で5月に退職した。新たな係長職は認知症対応型通所介護担当の生活相談員(正職員)を配置し代行職からのスタートとした。
- 部門内他係では、係長・課長不在のところもあり。職員層の薄さは未だ否めない。そのため、課題解決の検討は、ほぼ課長兼務の部長会議が機能することとなり、月曜日、金曜日の時間外(17時~20時)は定例で実施、それでも不足する場合は公休を返上し土曜日(AMもしくはPM)に出勤して課長不在の状況を引き続き補っている。

(2) 祝日営業による年間営業(祝日営業12日により年間営業日数は306日)

- 法人内他部門は、日曜祝日ともに休業としているところが多い。在宅サービス部は介護報酬の引き下げ対策として、ゴールデンウィーク、年末年始以外は祝日を返上して営業している。祝日営業日の具体は以下の通り。
①昭和の日(4/29) ②海の日(7/17) ③山の日(8/11) ④敬老の日(9/18) ⑤秋分の日(9/23) ⑥体育の日(10/9) ⑦文化の日(11/3) ⑧勤労感謝の日(11/23) ⑨天皇誕生日(12/23) ⑩成人の日(1/8) ⑪建国記念日振替日(2/12) ⑫春分の日(3/21)

(3) 在宅サービス部運営会議の開催

- 実施日時 : 毎月第3水曜日 17:45~
- 場 所 : 桜町センター2階会議室
- 実施内容 : ①2週間ごとの稼働率チェック
②1か月ごとの稼働率、収入達成状況のチェック(対予算ベース)
③1か月ごとの資金繰りチェック
④財務改善ルールの実施状況についてのモニタリングと意見交換

※会議は現在ややルーティン化傾向にあり、経営諸課題に対する取り組みがやや不足している実態にある。財務改善の先には、人と組織の成長による当会・当部門の未来予想図を描く作業が残されている。次年度にむけては運営会議の捩入れをするため、会議内容や方法の見直しを提案しているところである。

¹平成27年度第2回デイサービスセンター経営実態調査結果による(東社協)

【利用者支援状況】

1. サービス方針に則った取組み

1) 人格を尊重した福祉の実践

(1) 労務環境改善取組み

- ① 新任研修振り返り交流会（4月）
- ② 処遇改善計画の立案・実施
 - ・賃金改善、腰痛ベルト支給、国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）
- ③ 雇用の促進
 - ・ハローワーク、福祉のお仕事（福祉人材センター、福祉人材バンク）、インターネット、新聞折り込み、スカウトメールなど多様な媒体を活用
 - ⇒職員補充（介護員1名、配食宅配員4名、送迎運転員1名）
- ④ 腰痛予防対策
 - ・簡易移乗機のデモンストレーション実施（11月）
 - ⇒使用できる対象者が限定的であったため本格導入には至らなかった。
 - ・腰痛ベルト支給
 - ・腰痛予防対策講座開催（3月）
- ⑤ メンタルヘルス対策
 - ・ストレスチェックの実施（中央労働災害防止協会）
 - ・ストレス改善策の意見収集方法の検討
 - ・ハラスメント研修参加（9/13～11/12 法人本部）
 - ・メンタルヘルス研修参加（10/17 桜町センター）
 - ・管理者のためのメンタルヘルス研修参加（1/30 ヨハネホーム）
 - ・ハラスメント防止研修参加（2/15 戸塚ホール）
- ⑥ 暑気払いの開催（職員懇親会 8月）

(2) 人材育成取組み

- ① 理念に則った支援の遂行
 - ・事業計画キックオフ会議の実施
 - ・職員会議の活用（四半期ごとの振り返り）
 - ・日本カトリック老人施設協会研修参加（那須 「カトリック施設の継承課題と人材育成に係るグループワーク」 6/19～20）
 - ・「職場の魅力の伝え方」研修参加（10/17 看護協会会館）
⇒高齢福祉部門3施設で、人材採用と職場の活性化を目指したコンサルテーションの導入、ナラティブサイトの立ち上げ検討の実施。
 - ・福祉の仕事研修参加（1/17 戸塚ホール）
 - ・組織の一員としての基礎知識研修参加（2/22 戸塚ホール）
- ② 権利擁護の意識醸成
 - ・施設内虐待予防のためのワークショップ参加（那須 6/1）
 - ・社会福祉従事者人権研修I参加（茗荷谷 9/12 10/4）
 - ・介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修参加（調布市 8/16）
- ③ 虐待の芽セルフチェック実施・集計
 - ・職員会議での共有、意見交換
- ④ 地域公益活動実践報告会発表
 - ・社会福祉法人における地域公益活動実践報告会（東京都地域公益活動推進協議会）（9/12 あいおいニッセイ同和損保新宿ビル）
⇒様々な福祉ニーズを抱える方への「フィッティングサポート」～人としての尊厳を

守る～ 報告者：本町センター長 山極 愛郎

- ⑤問題解決の考え方と方法研修参加（8/3）
- ⑥記録の書き方研修参加（7/12 自施設研修）
- ⑦東社協によるデイサービスの基本研修参加（立川商工会議所 6/13）
- ⑧介護職員研修参加
 - ・初任者研修（6/2～9/8 武蔵野市高齢者総合センター）
 - ・持ち上げない介護研修（2/5 戸塚ホール）
 - ・小金井市介護職員現任研修（身体の構造を知り介護に活かす 3/12、3/13）（3/26 接し方・観察・気づき・アセスメント）
- ⑨職場紹介研修参加（12/6 障害部門山梨地区相談支援）
- ⑩キャリアパス面接の実施
 - ・係長候補の職員が代行職に着任する際、管理者との面接を実施し、目標やルール、モニタリングの実施などについて確認をし、事後評価を行うしくみをつくった。

（3）その人らしさの追求取組み

- ①事例勉強会の定期開催
 - ・毎月第二水曜日 18：00
- ②理美容サービスの提供
 - ・床屋や美容室に行けない方に対しセンターで理美容サービスを提供している。
 - ・予約制 月1回
- ③身だしなみチェック・清潔整容ケアの実施
 - ・高齢者世帯、独居世帯など介護力が不足しがちな在宅環境にあるご利用者様は、細やかなケアが十分に受けられない実態がある。そのため、センターでは来所時に身だしなみを確認し、清潔整容のケアが十分行き渡るよう取り組んでいる。

（4）ゆしみ、張り合い、心地よさの追求取組み

- ①ゆしみ
 - ・行事食の年間計画立案実施
 - ・人気映画作品アンケートにもとづく映画上映会の実施
 - ・手芸作品づくりの機会増
- ②張り合い
 - ・作品展覧会開催
 - ・作品コーナーへの展示
- ③心地よさ
 - ・リクライニング車椅子の購入・修理
 - ・中古クラシック CD の譲受（音楽鑑賞コーナー設置にむけて）
 - ・清潔整容に係る OJT の推進

2) 安全と安心の提供

（1）食の自立支援事業（配食、活動会食会、いっぶくカフェ、食の自立第三者委員会など）

①配食サービス

- ・配達日：日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く平日
- ・利用日：月水金または火木土の週3回以内
- ・対象：下記ア、イの要件を満たし且つ包括支援センターの調査訪問結果で市の承認を得た方
 - ア：介護保険サービスを利用している方
 - イ：「ひとり暮らし」もしくは「高齢者世帯」、「その他の世帯」で食材の調達・調理が困難で、定期的な見守り支援が必要な方

- ・利用数：定員は 80 食/日。実績は平均 88 食/日。
- ※8 食*288 日=2,304 食は施設負担で実施。食の自立支援事業のニーズの多い実態は市とも共有し、事業対象者ならびに受託事業費の適正化に向けた確認や交渉は毎年実施している。しかし、いまのところ適正化のための増額には至っていない。

②活動会食会・いっぷくカフェ

- ・開催頻度：毎月 1 回
- ・内 容：外出機会をつくり、閉じこもり防止のきっかけづくりを行う。
- ・対 象：食の自立支援事業配食サービスご利用者から選出
- ・実施時間：活動会食会（11 時～14 時）いっぷくカフェ（14 時～15 時）
- ・参加者数：活動会食会（4～5 名）、いっぷくカフェ（5～6 名）

※引きこもりがちな方にとっていっぷくカフェや活動会食会は、デイサービスなどに
つなげ社会性を回復させるためのよい機会となっている。

※通所系サービスに繋げる第一歩としてケアマネジャーによりよく活用してもらえ
るように PR してゆきたい。

③食の自立第三者委員会

- ・目 的：食の自立支援事業（配食、いっぷくカフェ、活動会食会など）が、事業の
目的にあって提供し機能するよう社会福祉法人聖ヨハネ会では第三者委
員会を独自で設置した。
- ・メンバー：第三者委員（配食ボランティア、いっぷくカフェボランティア、地域の代
表）、オブザーバー（小金井市介護福祉課）、栄養部（課長、係長、食の自
立支援事業コーディネーター）、センター長
- ・開催頻度：年 2 回
- ・内 容：食の自立支援事業の実施状況報告、サービス業務の改善取組み、苦情対応
報告、配食試食会などを通して、本事業の健全な運営に必要な意見交換を
行い事業運営に役立てている。

(2) 自衛消防隊活動

①自衛消防訓練の実施・報告

- ・内 容：避難訓練（年 6 回）、通報訓練（年 4 回）、消火訓練（年 2 回）いずれも
毎回計画書と報告書を消防署に提出している。
- ・参加者：デイサービス職員

※本町センターより火災発生の際の火の元となりうる栄養部職員の自衛消防訓練への参加
が得られていない実態があることを防災委員会で報告し、課題として共有した。これ
により、次年度から漸く栄養部も自衛消防訓練に参加する方針となった。

②高齢部門防災員会（毎月第 2 火曜日 18 時～18 時半）

- ・震災時自動参集方法の確立
- ・災害時緊急連絡カードの作成・配布・回収・入力
- ・ご家族向け「大震災が起きた場合の家族との連絡方法について」作成・配布周知
- ・地震発生時非常用放送マニュアルの作成
- ・地震発生時初動 30 分マニュアルの作成
- ・被災時の燃料供給体制の構築検討（ガソリン・LP ガス）

③防災用具・被災時備蓄品・救急救命備品の購入・管理

- ・防災用ヘルメット（19 個）、非常用トイレセット（50 回分）、簡易トイレ式（100
回分）、ガソリン携行缶（10 ㍓*3 缶）、非常用備蓄水（2 ㍓*54）、非常用石油ストー
ーブ（13 畳用*2 台）、石油ポリタンク（18 ㍓*2 個）
- ・AED 電池交換（11 月）

④小金井市福祉二次避難所

※平成 24 年 4 月 1 日災害発生時における二次避難所としての協定を市と締結しているが、その後の動き出しはない。今後部門や法人を通して二次避難所としての役割機能の遂行ができるよう準備をすすめたい。

⑤救急医療災害支援情報キット申請窓口の継続

(3) 建物設備

- ・空調機器 (SGP-CH450G1N) の修理 (2 月)
- ・厨房自動ガス遮断装置の警告灯点灯時対応マニュアルの作成
- ・非常口付近の漏水修繕工事
- ・害虫駆除 (厨房 7~10 月)
- ・側溝補修工事 (正面エントランスならびに西側駐車場の側溝 2 月)

(4) 医療と介護の連携

- ・小金井市介護職員現任研修 (6/2 食についての困りごと、12/21 嚥下困難者への食事)
- ・食支援勉強会 (10/24 戸塚ホール)

(5) 感染症予防取組み

- ・2017 (H29) 年度は、5 月下旬から 6 月上旬にかけヒトメタニューモウイルス (夏風邪の一種) が蔓延した。初期に多摩府中保健所へ報告。助言指導を受けた。
⇒プログラムの一部自粛、消毒薬の変更、有症状者への感染拡大防止策の実施、空気入替や乗車前消毒の徹底などで収束した。但し、ウイルスの特性上、心疾患や呼吸器疾患の患者に与える影響が大きく、ご利用者様の一部には入院を余儀なくされる方もおられた。

①感染症対策委員会、安全衛生委員会の活動

- ・感染症研修開催・参加 (9/26 ノロ・インフルエンザなど対応)
- ・感染症シュミレーション研修開催・参加 (10/24 自施設研修)
- ・手洗いチェッカーによる手洗いチェック実施
- ・感染症研修「車中の場合」開催・参加 (12/20 自施設研修)
- ・ノロキット配備 (車輦・建物)
- ・次亜塩素消毒薬による建物設備消毒実施
- ・ノロキット用塩素消毒薬の毎日交換実施
- ・メディカルマスクの購入配布 (職員ならびに必要時は利用者にも配布)
- ・インフルエンザ予防接種 (11/10)・検便検査実施

②本町センターの感染症予防環境対策

- ・害虫防除作業委託
- ・二酸化塩素発生用品の購入設置による空間除菌実施
- ・加湿器の設置、定期清掃
- ・朝礼時の注意喚起 (健康チェック、マスクエチケット、手洗い、手指消毒、うがい)
- ・入館ルール徹底 (手指消毒薬の配備と案内掲示)
- ・貯水槽防虫剤散布作業

③感染症対策研修への参加

- ・食中毒の予防対策 (於：桜町センター 6/28)
- ・「介護施設における感染症対策」(於：宮路楽器ホール) (11/20)

(6) 事故災害対策

①介護事故

- ・平成 29 年 1 月 7 日に発生したトイレ便座からの K・E 様の転落事故は、平成 30 年 6 月 6 日に示談完了。

- ・転倒事故1件
 - ご本人がトイレを終えるタイミングで介助に入ることをしていたが、タイミングが合わず先に立ち上がりしりもちをついてしまった事故が発生。
 - ⇒受診し検査をしたが、骨折などなく大事には至らなかった。
 - ⇒ご利用者の認知機能や身体能力などのアセスメントが不十分で、適切な介入方法の周知が十分ではないと判断されたことから、通所介護計画の周知・修正のながれを再確認し徹底するよう書類や会議の実施方法について改善した。
- ②ヒヤリハット
 - ・ヒヤリハットは、予防デイ・一般デイで年間49件（昨年度37件）。認知デイで14件（昨年度6件）、合計63件であった。
 - ・43件中、最も多いヒヤリハットは送迎関係のもので19件（30.2%）あった。送迎忘れなどが多い。送迎忘れへの対策はタイマーセットをルールとしているが面倒がってルール違反をする者が常習化したことから件数が多い。OJTで指導している。
 - ・原因別に多かったのは「確認不足」によるヒヤリハットで28件（44.42%）に及ぶ。こちらも決まった職員によるものである。治療と併行しOJTに取り組んでいる。
- ③車輻事故（8/21）
 - ・対物対人事故。
 - 配食車輻による配達中の交通事故。狭い路地からの飛び出し。
 - ⇒事故後の対応を迅速かつ細やかにを行いトラブル回避
- ④苦情
 - ・特になかった。
- ⑤救急救命講習受講
 - ・普通救命講習への参加（4/15、9/16）
- ⑥送迎車輻事故予防環境の整備
 - ・スぺーシア 冬タイヤセット購入（アルミ+スタッドレスタイヤ）
- ⑦介護事故予防
 - ・介護事故予防研修（8/22 移乗介助時の脚の巻き込みについて）
 - ・腰痛予防研修（3/15）

3) 地域との共生

(1) 認知症に強い街づくりへの取り組み

①みんなの安心ささえ愛ネットワーク

- ・毎月第3月曜日 14時30分～16時
- ・内 容

北東圏域における商店会を中心とした地域包括ケアシステムのモデル構築のため、けやき通り商店会とともにきた地域包括支援センター、本町センターなどがサポートして「みんなの安心ささえあいネットワーク」を創設した。

特に認知症高齢者の行方不明対応など街ぐるみで取り組まねばならない課題は、一般社団法人セーフティネットワークリンケージが開発した「みまもりアプリ」の活用で対応をすすめることを決め、北東圏域発信で市内全域に登録を推進するよう働きかけを行っているところだ。

具体的にはけやき通り商店会の秋祭りでのデモストレーション、他団体からの活動見学対応、小金井市民活動まつりへの協力、行政・市議への説明機会の確保などの活動が挙げられる。さらに、今年は東京ホームタウンプロジェクト「プロボノ1DAYチャレンジ」を活用しけやき通り商店会を中心とするささえ愛ネットワークのチラシ（地図）づくりを行い、ネットワークの可視化を図った。

次年度も、プロボノチームを活用した取り組みは継続してゆく予定。

・参加者

けやき通り商店会会員、本町センター、きた地域包括支援センター、小金井市行政、社会福祉協議会、一般社団法人セーフティネットワークリンケージなど

②認知症を支える介護者の集い

・毎月第一土曜日 13時30分～15時

・内容：認知症を支える在宅介護の経験を分かち合い、学び、気づきを得て、家族介護や自分自身と地域の今後に活かしていただく。

・対象：当センターにおける家族会は、家族介護者に限定せず、地域で認知症の方の在宅介護の支えとなっている方、支えになりたいと考えている方、認知症サポートに興味関心のある方が自由に参加できるよう門戸を開いている。

・参加者：5名前後

・講習会：年3回開催

●第1回テーマ「認知症について」講師 桜町病院精神科

●第2回テーマ「認知症高齢者にやさしい街づくりを目指して」

●第3回テーマ「認知症になったとき」

※平成29年度より市内家族会の連絡会が立ち上がった。本年度は家族会参加者・認知症デイサービスご利用者家族・ケアマネジャーへのアンケートを行った。アンケート結果から家族会の周知不足が判明した。次年度は家族会のPR強化を図る予定でいる。

③地域密着型デイサービス運営推進会議開催（9月・3月）

・内容：認知症対応型通所介護サービスの事業や当会ならびに部門が提供する諸サービスについて知っていただき、よりよい事業運営、サービス提供を目的としご利用者様、ご家族様、地域の皆様方からのご意見をいただく。

・参加者：センターご利用者ご家族、ボランティア代表、けやき通り商店会代表、きた地域包括支援センター、本町センター認知症デイ管理者、担当職員。

④みまもりあいプロジェクトの推進

・けやき通り商店会を中心に、きた地域包括支援センターなどとともに「みんなの安心ささえ愛ネットワーク」の構築にむけた取り組みをおこない、一般社団法人セーフティネットワークリンケージが開発した「みまもりアプリ」（ダウンロード無料）が有効と考え、同ネットワークから全市に向けアプリのダウンロード数を増やすよう発信している。

※行政は近隣市での実績動向を見てから推進について判断したいとの意向。

⑤認知症サポーターフォローアップ講座への参加

・認知症サポーター養成講座（10/20 3名）

・認知症サポーターフォローアップ講座（11/17 4名）

⑥小金井市介護事業者連絡会 認知症部会の立ち上げ

・市内認知症デイサービス（休止中のデイサービスを含め6事業所）の担当でそれぞれの施設の課題を共有し、今後の取り組みや認知症ケアについて話し合い、実現に向けて取り組んでいる。

(2) 家族介護者教室

・日時：11月18日（土）13時30分～15時30分

・テーマ：「かかりつけ薬局の上手な活用方法」

・講師：田中 智巳氏（小金井市薬剤師会理事）

・参加者：10名

(3) ボランティア受入体制整備の取組み

①ボランティア委員会（委員長：本町センター長）

- ・ 3施設合同のボランティアのしおり（～あなたと会えてよかった～）を作成し、受入時に活用できるようにした。

②広報委員会ホームページ担当

- ・ ボランティアの申込みや活動状況の紹介がホームページからできるようにしている。

③行事企画用看板やポスター掲示のための大型プリンターの購入

- ・ コンサートなどの実施環境づくりの不足を補うため購入し、イベントボランティアの方々が気持ちよく活動できるよう環境改善に取り組んだ。

(4) 施設開放

①けやき通り商店会主催「小さなお祭り」（11/18～19）

- ・ 餅つき大会準備物品置き場：南側駐輪場、西側駐車場
- ・ 餅つき大会会場：西側駐車場・正面玄関前スペース、水道
- ・ 休憩場所：トイレ、食堂開放、無料お茶コーナーの設置
- ・ イベントボランティア控え室提供：3階

②本町2丁目町会活動場所の提供

- ・ 趣味、コーラス、体操、雑学グループ活動
- ・ 防災・防犯活動「町歩きで発見」会場貸し出し（2月25日（日））

③防災協定にもとづく防災倉庫の設置継続・火の用心開始拠点

(5) 雪かき

- ・ 1月22日（月）23日（火）と関東地方に大雪が降り、センター近隣の雪かき、けやき通りの凍結箇所（コインパーキング前など）の雪かきならびに融雪剤・凍結防止剤の散布などに取り組んだ。

【施設整備状況】

(1) 概況説明

1998（H10）年10月開設から19年が経過し、建物設備共に劣化が進んでいる。開設当初購入した設備備品は故障が生じていてもメーカーの部品共有が厳しい実態で、買換えや大規模改修を余儀なくされる状況にあると判断している。特に危機的状況にある設備は、①冷暖房空調設備（GHP）②屋上防水シート③エレベーター。備品では④福祉車両2台（いずれも10万kmオーバー）⑤特殊入浴機器（18年）である。

この状況は指定管理委託元である小金井市へも所轄の高齢福祉係を通じ報告し、毎年見積書を届け予算化をお願いしている。

本町センターは市より福祉二次避難所としても協定を結んでいることから、いざというときの建物設備の不具合は市民に大きな不安を与えかねない。その点からも引き続き市には実情を報告し予算化をお願いしてゆく。

(2) 主な固定資産

- ノートパソコン（富士通エスプリモ D556/RX）2台 ￥342,792
- キヤノン大型プリンター ￥248,400

(3) 主な修繕内容

● 市の財源にて修繕したもの

- ・ 非常口からの雨水浸水修理（9月22日）
※その後も雨水侵入あり。建築営繕課・介護福祉課には報告済
- ・ エレベータードアコントロールユニット交換（10月16日）
- ・ 玄関前、西側駐車場側溝補修工事

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2017(H29)年度 利用実績集計表 2017年4月～2018年3月 本町高齢者在宅サービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	通所介護・一般 日数	25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	25名/日 定員	625	600	650	650	675	650	650	650	625	600	600	675	7,650	
	介護給付 (20人想定)	登録数	67	66	62	70	70	66	67	68	70	71	72	74	-
		実利用者数	67	66	62	70	70	66	67	68	70	71	72	74	-
		延利用者数	535	503	445	551	618	572	526	547	531	542	523	636	6,529
		人数/日当	21.4	21.0	17.1	21.2	22.9	22.0	20.2	21.0	21.2	22.6	21.8	23.6	21.3
		利用率	107.0%	104.8%	85.6%	106.0%	114.4%	110.0%	101.2%	105.2%	106.2%	112.9%	109.0%	117.8%	106.7%
		予防給付 (5名想定)	登録数	10	10	9	8	8	7	7	7	7	6	6	-
	実利用者数	10	10	9	8	8	7	7	7	7	6	6	6	-	
	延利用者数	66	57	54	46	49	41	42	45	46	39	36	38	559	
	人数/日当	2.6	2.4	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.7	1.8	1.6	1.5	1.7	1.8	
	利用率	52.8%	47.5%	41.5%	35.4%	36.3%	31.5%	32.3%	34.6%	36.8%	32.5%	30.0%	33.0%	36.5%	
	小計	実利用者数	601	560	499	597	667	613	568	592	577	581	559	674	7,088
		利用率	96.2%	93.3%	76.8%	91.8%	98.8%	94.3%	87.4%	91.1%	92.3%	96.8%	93.2%	99.9%	92.7%
	事業	通所介護・認知症 日数	25	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306
12名/日 定員		300	288	312	312	324	312	312	312	300	288	288	324	3,672	
登録数		25	26	26	25	24	27	26	26	25	26	25	29	-	
実利用者数		25	26	26	25	24	27	26	26	25	26	25	29	-	
延利用者数		267	264	238	247	260	295	257	265	247	232	231	272	3,075	
人数/日当		10.7	11.0	9.2	9.5	9.6	11.3	9.9	10.2	9.9	9.7	9.6	10.1	10.0	
利用率		89.0%	91.7%	76.3%	79.2%	80.2%	94.6%	82.4%	84.9%	82.3%	80.6%	80.2%	84.0%	83.7%	
通所介護合計		実利用者数	102	102	97	103	102	100	100	101	102	104	103	109	-
延利用者数		868	824	737	844	927	908	825	857	824	813	790	946	10,163	
※通所介護全体利用率		93.8%	92.8%	76.6%	87.7%	92.8%	94.4%	85.8%	89.1%	89.1%	91.6%	89.0%	94.7%	89.8%	
家族介護者教室		回数	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/	/	/	1
		利用者数	/	/	/	/	/	/	/	10	/	/	/	/	10
認知症高齢者家族交流		回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		利用者数	7	5	9	7	6	5	5	11	5	5	7	6	78
食の自立支援事業		食の自立支援事業 日数	24	21	26	25	26	24	25	24	22	22	23	26	288
	80人/日 定員	1920	1680	2080	2000	2080	1920	2000	1920	1760	1760	1840	2080	23,040	
	①②③⑤	延食数	1983	2014	2233	2214	2266	2123	2241	2133	2013	2019	1987	2204	25,430
		利用率	103.3%	119.9%	107.4%	110.7%	108.9%	110.8%	112.1%	111.1%	114.4%	114.7%	108.0%	106.0%	110.4%
	①配食サービス	登録数	195	200	202	207	206	205	201	208	211	208	206	206	-
		実利用者数	189	192	194	201	206	205	201	208	211	208	206	206	-
		延食数	1979	1999	2229	2207	2263	2106	2234	2129	2007	2015	1977	2199	25,344
		食/日当	82.5	95.2	85.7	88.3	87.0	87.8	89.4	88.7	91.2	91.6	86.0	84.6	88.0
	利用率	103.1%	119.0%	107.2%	110.4%	108.8%	109.7%	111.7%	110.9%	114.0%	114.5%	107.4%	105.7%	110.0%	
	②緊急配食	実利用者数	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	11
		延食数	0	11	0	0	0	12	0	0	0	0	6	0	29
	③活動会食サービス	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	4	4	7	3	5	7	4	6	4	4	5	57
	④いっぶくカフェ (閉じこもり防止)	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	5	5	5	6	5	4	5	6	5	5	5	60
⑤栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥調査・ケアプラン 新規・継続	回数	8	9	12	11	9	9	11	11	10	8	10	9	117	
	延利用者数	2	2	1	1	2	2	0	2	2	1	2	1	18	
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	2	2	1	1	2	2	0	2	1	2	1	18	
	パーチャタイム(自費)	延利用者数	2	2	1	1	2	8	0	2	2	4	3	29	
	地域社会支援①	回数	6	4	0	8	3	8	6	6	2	4	7	61	
	元気です本町2丁目会等	延人数	34	30	0	49	18	51	30	43	26	18	37	364	
	日常生活支援	実人数	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	5	
	(各種相談対応等)	延人数	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	5	
	ボランティア活動	実人数	39	36	20	35	36	40	32	35	39	35	30	39	-
		延人数	103	80	44	103	86	149	87	94	103	83	80	104	1,116
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

【教育研修一覧】

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2017/4/15	消防・防災	普通救命講習	小金井消防署	中村 真子
2017/4/18	運転	安全運転講習会	機械振興会館	山口 俊一郎
2017/4/18	運転	安全運転講習会	機械振興会館	清水 淳
2017/6/2	医療と介護の連携	在宅生活における「食」についての困りごと	萌え木ホール	川村 八千代
2017/6/2	医療と介護の連携	在宅生活における「食」についての困りごと	萌え木ホール	西村 貴子
2017/6/13	介護	デイサービスの基本を学ぼう		清水 淳
2017/6/14	救命・防災	消防総合訓練	小金井消防署	宮川 夏子
2017/6/19～20	理念継承	カトリック老施協関東支部研修	栃木県那須	山極 愛郎
2017/6/19～20	理念継承	カトリック老施協関東支部研修	栃木県那須	山田 知子
2017/6/22	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	野口 照代
2017/6/22	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	高野 幸子
2017/6/22	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	大木 清美
2017/6/22	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	吉野 遼
2017/6/22	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	清水 淳
2017/6/28	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	山田 知子
2017/6/28	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	近江 星樹
2017/6/28	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	西村 貴子
2017/6/28	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	市村 直子
2017/6/28	感染症	食中毒予防対策講座	桜町センター	川村 八千代
2017/7/27	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	茗荷谷	市村 直子
2017/8/3	リスクマネジメント	法人合同研修「問題解決の考え方と方法」	戸塚ホール	中村 真子
2017/8/3	リスクマネジメント	法人合同研修「問題解決の考え方と方法」	戸塚ホール	川村 八千代
2017/8/3	リスクマネジメント	法人合同研修「問題解決の考え方と方法」	戸塚ホール	市村 直子
2018/8/16	権利擁護	介護サービス事業管理者権利擁護研修	調布市	山極 愛郎
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	西村 貴子
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	川村 八千代
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	高野 幸子
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	山田 知子
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	大木 清美
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	近江 星樹
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	長島 麻綾
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	市村 直子
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	宮川 夏子
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	郷原 弥生
2017/8/22	介護技術	トランス時の足の巻き込みについて	本町センター	清水 香名子
2017/9/5	新人研修	きた包括新任研修	本町センター	成田 晴美
2017/9/2～30	新人研修	本町センター介護員研修	本町センター	佐藤 美代子

2017/9/12	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	茗荷谷	中村 真子
2017/9/13～	ハラスメント	コンプライアンス研修 E-ラーニング	本町センター	参加人数23名
2017/9/16	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	石黒 龍一
2017/9/16	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	小嶋 葉子
2017/9/16	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	澁谷 雅子
2017/9/16	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	宮坂 明子
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	佐藤 美代子
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	宮川 夏子
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	清水 淳
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	吉野 遼
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	大木 清美
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	高野 幸子
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	山田 知子
2017/9/26	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	川村 八千代
2017/9/28	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	市村 直子
2017/9/28	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	郷原 弥生
2017/9/28	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症について	桜町センター	国香 恵子
2017/10/2	新人研修	本町センター介護員研修	本町センター	清水 淳
2017/10/4	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	茗荷谷	大木 清美
2017/10/17	管理者	職場の魅力の伝え方	東京都看護協会	山極 愛郎
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	川村 八千代
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	山田 知子
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	市村 直子
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	高野 幸子
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	大木 清美
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	清水 香名子
2017/10/17	メンタルヘルス	「ストレス対策」ストレスと上手に付き合うために	桜町センター	西村 貴子
2017/10/20	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	石黒 龍一
2017/10/20	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	澁谷 雅子
2017/10/20	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	小嶋 葉子
2017/10/24	栄養	食支援勉強会「食支援～最近の動向」	戸塚ホール	高野 幸子
2017/10/24	栄養	食支援勉強会「食支援～最近の動向」	戸塚ホール	市村 直子
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	市村 直子
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	長島 麻綾
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	清水 香名子
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	高野 幸子
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	宮川 夏子
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	大木 清美
2017/10/24	感染症	ノロ・インフルエンザなどの感染症シュミレーション	本町センター	中村 真子
2017/11/15	多職種連携	退院カンファレンスで話し合うこと	宮地楽器ホール	川村 八千代

2017/11/15	多職種連携	退院カンファレンスで話し合うこと	宮地楽器ホール	市村 直子
2017/11/17	認知症	認知症サポートフォローアップ講座	マロンホール	鈴木 圭子
2017/11/17	認知症	認知症サポートフォローアップ講座	マロンホール	戸部 修
2017/11/17	認知症	認知症サポートフォローアップ講座	マロンホール	芹澤 由美
2017/11/17	認知症	認知症サポートフォローアップ講座	マロンホール	長瀬 洋子
2017/11/20	感染症	介護施設における感染症対策	宮地楽器ホール	西村 貴子
2017/11/20	感染症	介護施設における感染症対策	宮地楽器ホール	山田 知子
2017/12/6	職場紹介	障害福祉部門山梨地区における相談支援事業	戸塚ホール	川村 八千代
2017/12/21	介護職員現任研修	嚙む・飲み込むのが困難な人の食事	口腔リハ病院	宮川 夏子
2017/12/21	介護職員現任研修	嚙む・飲み込むのが困難な人の食事	口腔リハ病院	高野 幸子
2018/1/17	人材育成	福祉人材育成	戸塚ホール	山極 愛郎
2018/1/17	人材育成	福祉人材育成	戸塚ホール	川村 八千代
2018/1/17	人材育成	福祉人材育成	戸塚ホール	山田 知子
2018/1/30	メンタルヘルス	管理監督者向け・ラインケア	ヨハネホーム	山極 愛郎
2018/2/5	介護技術	持ち上げない介護	ヨハネホーム	長島 麻綾
2018/2/5	介護技術	持ち上げない介護	ヨハネホーム	宮川 夏子
2018/2/15	ハラスメント	ハラスメントの防止「心理学の観点から」	戸塚ホール	川村 八千代
2018/2/15	ハラスメント	ハラスメントの防止「心理学の観点から」	戸塚ホール	市村 直子
2018/2/15	ハラスメント	ハラスメントの防止「心理学の観点から」	戸塚ホール	山田 知子
2018/2/21	事務	介護報酬請求事務における実務上のポイント	飯田橋	岡田 愛子
2018/2/22	理念	組織の一員としての基礎知識	戸塚ホール	高野 幸子
2018/2/22	理念	組織の一員としての基礎知識	戸塚ホール	大木 清美
2018/2/22	理念	組織の一員としての基礎知識	戸塚ホール	佐藤 美代子
2018/3/12	介護技術	身体の構造を知り、介護に活かす	社医学	中村 真子
2018/3/13	介護技術	身体の構造を知り、介護に活かす	社医学	佐藤 美代子
2018/3/15	腰痛予防	腰痛予防対策講座	桜町センター	郷原 弥生
2018/3/15	腰痛予防	腰痛予防対策講座	桜町センター	高野 幸子
2018/3/15	腰痛予防	腰痛予防対策講座	桜町センター	大木 清美
2018/3/15	腰痛予防	腰痛予防対策講座	桜町センター	佐藤 美代子
2018/3/26	介護職員現任研修	基本的態度と利用者の方との接し方	商工会館	宮川 夏子

※ 研修は、総合・介護・認知症・感染症・看護・栄養・リスクマネジメント・レク・虐待防止・介護予防・その他
の分類で計画的に参加していきます。

※ 参加者が確実に参加できるようご協力願います。 ※ 申込したものの定員で参加不能の場合もあります。

3. 医療部門

【 総 括 】

1. 桜町病院(拠点区分)の医療事業活動における主な科目の収支状況は次のとおりである。

(1) 収入

1) 入院診療収入

入院患者数が計画に届かなかったことから計画収入を計上できなかった。

計画 2,176,667 千円

実績 2,137,596 千円 (計画比▲39,071 千円、昨年度比+90,346 千円)

患者数 計画 163 人 実績 156.6 人 (▲4.4 人、昨年度比▲0.4 人)

診療単価 計画 36,578 円 実績 37,559 円 (+981 円、昨年度比+1,584 円)

入院診療収入 診療単価は計画を上回ったが、患者数の減をカバーできず計画収入を下回った。

2) 外来診療収入

計画 719,248 千円

実績 719,645 千円 (計画比+397 千円、昨年度比+11,610 千円)

患者数 計画 387 人 実績 384.3 人 (▲2.7 人、昨年度比+7.0 人)

診療単価 計画 6,313 円 実績 6,357 円 (+162 円 昨年度比+118 円)

外来診療収入 患者数は計画に届かなかったが診療単価が上がったことからほぼ計画した収入を上げることができた。

(2) 支出

支出については、業務遂行に支障のない範囲内での支出抑制や節減に努め、科目ごとの増減はあるものの計画内に納めることができた。

1) 人件費支出

計画 2,184,642 千円

実績 2,180,314 千円 (計画比▲4,328 千円、昨年度比+36,495 千円)

2) 事業費支出

① 医薬品支出

計画 236,325 千円

実績 223,944 千円 (計画比▲12,381 千円、昨年度比+4,568 千円)

② 診材・医療等材料支出

計画 178,668 千円

実績 196,035 千円 (計画比+17,367 千円、昨年度+17,671 千円)

③ 水道光熱費支出

計画 54,959 千円

実績 57,832 千円 (計画比+2,873 千円、昨年度比+4,407 千円)

④ 業務委託費支出

計画 221,588 千円

実績 225,802 千円 (計画比+4,214 千円、昨年度比+7,084 千円)

3) 事務費支出

①業務委託費支出

計画 41,100 円

実績 37,688 千円（計画比▲3,412 千円、昨年度比+678 千円）

(3) 事業活動資金収支差額

計画 225,850 千円

実績 162,953 千円（計画比▲62,897 千円）

収入が計画に対し未達となり、事業活動資金収支差額は減額となった。

2. さくらまち保育所（サービス区分）

保育児実数 38 人の保育を行った。

事業活動収支において▲26,017 千円となった。

3. 桜町児童ショートステイ（サービス区分）

小金井市始め小平市など近隣市の障害児の短期入所 332 人及び日中一時支援 108 人の支援を行った。

事業活動収支において+1,715 千円となった。

I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

【運営状況】

I 事業概況について

平成 29 年度は 5 つの目標、①健全経営の維持に向け努める、②組織体制及び管理機能の充実を図る、③医療の質の向上に努めることにより、安全な医療、患者満足度の高い医療を提供していく、④地域包括ケア作りが進行する中で医療機関や福祉施設等との一層の連携を図る、④働きやすい環境を整備する、を掲げて運営してきた。

総じて順調な運営ができたと思うが、地域包括ケア病棟を有効に機能させていくことを始め、病床全体の効率的活用を図り収入を増加させ、病院の経営を安定化させることを目指して運営してきたことにより着実に経営改善は進んでいるものの、経営の黒字化は達成できなかった。

平成 29 年度は小金井地域においても地域包括ケアシステム作りが進められている中で、4 月に地域包括ケア病棟を立ち上げ地域の医療機関等との連携を深めつつ当院の立ち位置をしっかりと意識しながら、医療提供体制についての認識を深める年度となった。地域包括ケア病棟は稼働初年度としては、従来から連携のある医療機関始め新たな医療機関等とのつながりを持つこともでき、連携の拡充が進むと共に、診療収入の増加により経営にも好影響をもたらすことができ、順調なスタートをきれたと考えている。

また、整形外科や内科の入院診療単価が確実にアップしたことは想定したとおりであり、全体の単価は計画以上となったが、入院・外患者数を計画どおり確保することは出来なかった。入院患者数の変化を日別・月別に見ると、ここ数年の患者数の動きとは異なる増減を繰り返した年度

であった。とりわけ秋から年末にかけては例年になく大幅な入院患者数の減少が見られた一方、1月以降の高水準の患者数が維持できたことも、これまでの傾向とは明らかに異なるものであった。この好調な状況は次年度にも続いている。地域包括病棟稼働に伴い病院全体として効率的な病床運用が定着してきた結果ではないかと考えている。

改めて、経営の安定化のためには季節変動を踏まえた計画どおり、年度を通して安定的な患者確保を図ることが必要不可欠であることを、職員と共有して取り組んでいくことの重要性を痛感している。

1 平成 29 年度の主な動き

(1) 診療体制の整備

1) 地域包括ケア病棟の稼働

地域包括ケア病棟の立ち上げにより新たな医療機関からの紹介も見られ、診療単価が想定したとおり上がり、地域包括ケア病棟開設の初期の目的は達成されつつあると思う。2025年度の医療提供体制構築に向けた医療制度改革が進められている中で、小金井地区における地域包括ケアシステム環境を整えていく医療における中心的な役割を果たすためにも、医療から地域、介護領域への橋渡しの役割を果たすこの病棟の役割は大きなものがあると考えている。特に当院の特徴として地域の先生方や在宅からの入院が7割前後を占める状況が定着しつつあり、地域の医療機関等との連携が深まると共に、病院全体の病床利用にも好影響をもたらすものとなっている。引き続きこの病棟の役割と存続の意義を職員と共有しながら、効率的な運営に努めていく。

2) 認知症疾患センターの運営

認知症疾患センターは稼働から1年を経過し、相談支援、入退院支援や鑑別診断、地域の関係機関との連携等、着実に認知症患者が地域で安心して生活していくことができる支援に向け成果を上げている。認知症疾患センターとして、鑑別診断151件、専門医療相談5,226件、会議・研修会の開催2回、研修会等への講師派遣8回、小金井市等主催の会議等への出席9回等の実績を残せた。

3) 職員の確保・充実

平成29年度には整形外科領域の拡充を図るために膝関節外科を専門とする経験豊富な医師を採用した。同医師はスポーツ整形にも造詣が深く、スポーツ外傷分野にも拡大への期待をもっている。整形外科の手術は年間60件増えた。また、精神神経科に医師を増員することができた。2年目となった認知症疾患センターの順調な運営の一翼を担っている。

(2) 無料低額診療の実践

無料低額診療は今年度から東京都独自のやや緩やかな基準がほぼ廃止となり、国の基準で運用することとなった。廃止された東京都の基準の対象者には当院で大きな割合を占めていた障害者が入っていたが、国基準で行うこととなると10%という事業の実施基準をクリアすることが難しくなった。10%値に近付ける努力をしてきた結果、基準値には達しなかったが生保の患者が増えたことにより従来のデータを基に予測した数値を2~3%程上回る結果となった。入院8.4%、外来5.1%、合計6.18%。

(3) 管理体制の充実

1) 感染管理の充実

感染管理については、感染制御実践看護師を中心に、日常的な感染対策チームの活動も軌道に乗りつつあり、感染予防対策の充実、感染症の拡大防止等に確実に機能し始めている。

2) 診断書等管理体制整備

診断書等の取扱いの一元化、診断書等作成の迅速化に向け、診断書取扱い窓口の設置（4月）、診断書等作成支援システムの導入（8月）により課題もあるが順調に推移している。

3) 病院機能評価を更新受審・認定

7月に病院機能評価を更新・受審し認定通知を受領した。一つの目標に向け職員が共同して取り組む良い機会となった。受審に向けての事前の準備、受審当日のサーベイヤからの指導や指摘等、この受審が医療の質の向上につながる良い機会となったと考えている。

4) 保育所の運営委託

さくらまち保育所は保育士確保に窮したことから、4月に外部業者に運営を委託した。保育所閉鎖の危機を乗り越えることができた。

2 数値計画の達成状況

(1) 患者数

入院 年度初めには地域包括ケア病棟の立ち上げに伴う、患者の転棟調整や退院等の地域包括ケア病棟の条件に合わせた入退院調整等を行う必要があったこと、秋から冬にかけての患者低迷の状況がみられたが、月ごとの増減はあるものの高次医療機関や地域の先生方からの紹介も順調で一定の患者確保が図られていると考えている。

産婦人科の手術、分娩が減少し患者数の減少が見られる中で、南2階の有効利用プロジェクトを稼働させたこと、地域包括ケア病棟の効率的な運用に伴う南2階への産婦人科以外の患者の入院が進められることにより少しずつ南2階病棟の安定稼働が見られるようになった。中心となる産婦人科による利用初め、引き続き、南2階病棟の有効活用について模索していかなければならないと考えている。

患者確保策として、小金井医師会における地域包括ケア病棟の紹介、医療機関に対する渉外活動の継続、医局会での院長からの患者確保要請、診療科部長への院長ヒアリングの実施、ホームページの充実、業者サイトへの病院情報掲載などを行いつつ、また、分娩環境の整備としてアメニティーの整備も進めている。

年間を通じての患者数は昨年度に比し落ちていたが、例年患者数が減少する1月から3月にかけて高い数の日が続いたことから、計画数163人、昨年度実績（157人、78.9%）には届かなかったが156.6人（78.7%）まで回復した。

外来 9月から11月にかけて患者の減少が見られた。12月以降は季節性疾患の患者もあり患者増となった。外来診療については、午後診療の充実はじめ、救急はともかくも日中の時間帯は断らない診療、いわゆる「かかりつけ医」的役割を果たしていける状況の拡大を促している。

(2) 数値実績

1) 患者数・診療単価

年度計画の患者数、入院163人/日、外来387人/日に対し、入院156.6人、外来384.3人となり、計画に比し入院は▲6.4人、外来は▲2.7人となった。また計画診療単価、入院36,578円、外来6,313円に対し、入院37,559円、外来6,475円と計画を上回ったが、患者数が計画を下回ったことが赤字計上の要因である

2) 手術件数

計画手術件数は、月当たり75件以上の目標に対し件数は75.8件となり、昨年度より4.3件多くなった。整形外科は昨年度を月5.0件上回ったが、これは医師を増員した結果と考えている。産婦人科は東医大産婦人科の教授交代があり東医大からの手術患者が減少している。

一方、近隣医療機関からの手術対象患者の増加が見られるようになり、実施件数は昨年度比 0.5 件の減少に止まっているが、この落ち込みは経営改善を進める上でマイナスとなった。

3) 分娩件数

分娩は 33.9 件で昨年度に比べ月 4.1 件減少した。今年度の総件数は 407 件（昨年度比▲49 件）となった。少子化の折、分娩増加を図ることは難しいものがあるが、病院北側に大規模マンション入居者の利用を意図した病院案内看板新設、ホームページの改善、経産婦分娩を増やすために面会制限の原則廃止などを行うと共に、部屋の改装、アメニティーの充実、キュービクルカーテンの変更、キッズスペースの整備、産褥入院の導入などについて検討してきた。

4) MRI・CT 実績

MRI は一昨年 10 月から新しい機種が稼働しており、他の医療機関に撮影依頼することなく、確実な診断のために活用されている。CT も MRI の稼働に影響されることなく、確実に件数が増加している。両方で月 400 件をコンスタントに超えてきた。ただし、MRI は更新時に設定した 8 件/日が未達成の状況にある（6.87 件/日）。MRI については更に件数増を促している。

(3) 事業収支

1) 収入

計画 3,362,127 千円→実績 3,301,237 千円（▲60,890 千円）

昨年度比 +108,049 千円

・入院診療収入 2,176,667 千円→2,137,596 千円（▲39,071 千円）

入院診療単価は、計画を上回ったが患者数の減少をカバーできるほどではなかったことから、入院収益は予算比で 3.9 千万円の計画減となった。

・外来診療収益 719,248 千円→719,645 千円（+397 千円）

外来は、患者数が計画に若干届かなかったが、診療単価が計画より上がったために、ほぼ計画道理の収入を計上できた。

2) 支出

計画 3,208,344 千円→実績 3,205,932 千円（+2,412 千円）

昨年度比▲76,848 千円

支出については抑えられるものは実施を見合わせるにより節減を図ってきた。

計画を 0.2 千万円下回った。

3) 事業活動収支差額

計画 225,850 千円→実績 162,953 千円（▲62,897 千円）

昨年度比 +33,533 千円

（参考）病院会計準則に基づく決算

<医療事業収支>

(1) 医業収入

計画 3,313,546 千円→実績 3,271,954 千円（▲41,595 千円）

昨年度比 +109,071 千円

入院診療収益 2,176,196 千円→2,137,596 千円（▲38,600 千円）

外来診療収益 718,327 千円→719,643 千円（+1,316 千円）

(2) 医業費用

計画 3,356,120 千円→実績 3,336,094 千円（▲20,026 千円）

昨年度比 +77,470 千円

(3) 経常利益

計画▲27,120千円→実績▲34,908千円(▲7,788千円)

昨年度比+47,047千円

3. さくらまち保育所

さくらまち保育所は前述のとおり保育士確保が困難であったことから運営を外部委託した。目に見える保育士の充足が図られた訳ではないが、当保育所は、常勤保育士3名、その他の勤務体制の保育士2.7名の体制で1日平均保育児数14.3人の保育を行った。保育所を利用した児童実数は38人で、平日保育の他、24時間保育69回、休日保育44回を行った。

4. 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤保育士4名、非常勤保育士1名、アルバイト学生10名の体制で障害児の短期入所332人及び日中一時支援108人の支援を行った。

平成29年度は、引き続き平成27年度から3年間、同ショートステイを利用する多くの障害児が通学する都立小金井特別支援学校が校舎改築のために移転している西国分寺の仮校舎への通学支援体制の最終年度となった。関係市の支援を得ながらスクールバスによる通学支援や補助的にタクシー通学支援を行った。

【平成29年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率(H29度)	利用率(H28度)	利用率(H27度)
入院	199床	156.6人	57,171人	78.7%	78.9%	78.7%
外来	—	384.3人	113,745人	—	—	—

平均在院日数	22.6日 一般のみ16.0日 ホスピス69.2日 療養377.4日
新入院患者数	2,615人(前年度2,529人)
退院患者数	2,593人(前年度2,540人)
時間外患者数	570人(前年度592人)
紹介率・逆紹介率	紹介14.1% 逆紹介13.3%
手術件数	909件(前年度858件)
全麻件数	411件(前年度345件)
分娩件数	407件(前年度456件)
人間ドック件数	入院8件(前年度22件) 外来671件(646件)

【無料低額診療】 上段：平成29年度 下段：平成28年度

1. 受診人数

新規実人数	継続実人数	実人数計	延べ受診人数
21	11	31	142
22	12	44	158

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
73	18	2	2	27	1	18
80	6	3	5	37	0	23

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉協議会・福祉公社	難民支援	ホームレス支援団体	他病院	その他	合計
10	10	52	1	0	10	128
45	10	79	2	0	22	158

【職員】平成29年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成29年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成30年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤職員	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院長	1									1		
副院長	2									2		
医師	19	44	4	4	3	15	19	3		18	51	5
助産師	11	8		2						14	9	
看護師	79	49	1	16	20	8	15	1		72	41	2
准看護師	5	3	2	2	2	1			2	4	3	2
看護助手	15	4	4	4	3	3	3			18	4	4
薬剤師	5	2			1					4	2	
放射線技師	6		1							6		1
臨床検査技師	8	2	1							8	2	1
PT・OT・ST	12	6	1	1						12	6	1
栄養士	7			1	3					4		
MSW	6									6		
事務部	20	8		2	2	3	1	1	1	19	9	
施設	3									3		
その他	17	20	2	2	2	7	2			16	23	2
合計	216	146	16	34	35	37	40	5	3	207	150	18

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

【患者動向】

平成29年度診療科別患者状況

区分	入院		外来	
	一日平均患者数（人）	一日平均診療単価（円）	一日平均患者数（人）	一日平均診療単価（円）
内科	41.5	28,257	137.9	7,421
	40.5	25,453	125.0	8,043
精神神経科	—	—	39.5	5,298
			38.4	5,248
小児科	2.8	30,068	61.3	4,565
	2.7	29,101	65.3	4,210
外科	11.2	30,543	17.7	5,875
	13.6	28,400	18.3	6,044
整形外科	27.8	46,927	52.0	8,007
	24.7	43,951	50.4	6,869
産婦人科	18.9	77,281	45.2	6,148
	20.7	75,438	48.2	5,915
眼科	1.5	75,648	28.9	5,813
	0.8	124,067	30.2	5,488
ホスピス科	15.0	45,690	1.7	5,386
	15.3	43,546	1.5	5,856
ホスピス内科	2.5	26,652	—	—
	3.1	25,253		
療養	35.4	18,356	—	—
	35.7	18,526		
計	156.6	37,559	384.3	6,475
	157.0	35,975	377.3	6,357

注：上段 29年度 下段 28年度

【29年度機器等整備状況】

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・修繕	整備部署
関節鏡一式	1	新規	整形外科
ストルツ モルセレータ ロトカット	1	〃	産婦人科
超音波検査装置	1	更新	産婦人科
ベットパンウォッシャー	1	更新	南2階病棟
医用テレメータ	1	更新	南3階病棟
ナースコール	1	〃	ホスピス病棟
電動ベッド	7	更新	〃
医用テレメータ	1	〃	療養病棟
注射用カート	2	〃	薬剤科
遠心分離機	1	更新	検査科
血圧脈波検査装置	1	〃	検査科
連動昇降式平行棒	1	新規	リハビリ科
スチームコンベクションオーブン	1	更新	栄養科
給与計算ソフト	1	〃	総務課
電子カルテ一式	1	増設	医事課
食器一式	1	更新	職員食堂
電子カルテシステム追加	2	新規	システム委員会

【29年度施設・設備整備状況】

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
ホスピス病棟空調冷温水発生器整備
検査科安全キャビネット整備
受水槽内目地ライニング工事
ホスピス病棟玄関自動扉エンジン交換
病院が以降樹木剪定管理
専用水道井水メーター交換

【29年度教育研修実施状況】

研修名（研修タイトル）	年月日	開催場所	出席者数
医療倫理と患者の権利	29. 5. 17	戸塚ホール	58名
改正個人情報保護法について	29. 6. 21	別館3階講義室	50名
がんばろう手指衛生	29. 6. 23	会議室・チーム医療推進室	30名
洗浄と消毒	29. 7. 5	会議室	35名
スピリチュアルケア研修会 「届かなかったトリセツ」	29. 8. 25	会議室	22名
医療安全研修 「医療事故の初期対応について」	29. 9. 20	戸塚ホール	46名
医療安全研修 「院内におけるアナフィラキシー対応」	29. 10. 4	〃	61名
ストレス1日決算主義のすすめ	29. 10. 11	〃	25名
スピリチュアルケア研修会 「死の臨床とスピリチュアルケア」	28. 10. 27	〃	28名
スピリチュアル研修会 「支援者のためのクラウンワーク」	28. 12. 9	〃	14名
平成29年度院内研究発表会	30. 3. 11	会議室	50名

【市民講座】

研修内容	年月日	開催場所	出席者数
①認知症を理解する ②腰痛と予防体操	29. 6. 3	戸塚ホール	30名
①子どもの感染症について ②家族でできるリフレッシュ体操	29. 9. 16	〃	13名

<29年度さくらまち保育所>

項目	実績
保育児数	保育児延べ数 3,060人（前年度 2,757人）
	平日 2,893人、休日 167人（前年度平日 2,630人、休日 127人）
24時間保育	延べ回数 69回（前年度 77回）
	延べ保育児数 112人（前年度 127人）
職員数	延べ数 1,688人（前年度 1,542人）
行事等	定期健康診断 5月、11月

<29年度桜町児童ショートステイ>

項 目	実 績
短期入所 利用者数	332 人（前年度 299 人）
利用日数	1,019 日（前年度 868 日）
日中一時支援利用者数	108 人（前年度 240 人）
利用日数	152 日（前年度 448 日）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市

4. 公益事業部門

I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【平成29年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	8	8	9	9	10	9	9	9	9	9	9	9	107
訪問件数	29	36	37	43	49	42	37	46	42	42	36	46	485
介保利用者	47	43	48	48	45	41	45	43	42	40	36	34	512
訪問件数	199	184	219	205	195	177	191	191	175	146	133	144	2159
(訪問リハ件数)	30	32	34	30	36	22	26	29	15	18	21	16	309

【職 員】

正職員 2 名 ・ 非常勤職員 4 名（非常勤職員 就任 2 名 ・ 退任 1 名）

【施設運営状況】

- ・ 平成29年度は職員の異動があったこと、1月に常勤職員が通勤途中の骨折（労災）というハプニングがありその後実際の訪問活動を行えないなど訪問件数を増やせない状況であった。ベテランの非常勤職員の勤務数を増やす、御利用者の方々には訪問の日程を変更して頂くなど対応を行ったが職員数が少ないため十分にはできず、御利用者へご負担をおかけすることとなった。
- ・ 利用者に関しては、全体の利用者数は減少したが、新規依頼は昨年と同様程度受けることができた。主治医は他の病院、開業医は減少したが、訪問診療医は前年度より増えている傾向にあり、病院から退院する際に通院困難となり訪問診療医へ主治医が変更となる場合が多かった。利用者の特徴として、85歳以上の方、認知症により体調管理が出来なくなった方、高齢者二人暮らしへの訪問看護を行うケースが増えている。各サービスが連携を強くしサポートすることが必要であり、また医療と生活を両方の視点からアセスメントできる看護師の役割は大きいと感じる。

ヨハネ会で他部門の方々と協力し、老いから看取りまでをサポートするステーションとなるためには、安定した職員数、職員教育が急務である。24時間対応するシステムづくり、職員の教育などが課題であるが、職員の採用に関してはここ何年もの課題である。他のステーションも採用が困難な状況が続いており、ステーション独自では解決が困難な状況である。

【利用者支援状況】

1. 利用者数（年間登録者）

78名（男34名 女44名）※前年度86名

2. 利用者の住所

小金井市 77 名 ・ 武蔵野市 1 名

3. 主治医（利用者 78 名）

桜町病院 36 名（前年度より-3 名）

その他の医療機関病院 7 名（前年度より-6 名）・市内の開業医院 13 名（前年度より-2 名）・他市の開業医院 4 名（前年度より-4 名） 訪問

診療 18 名（前年度より+7 名）

4. 新規利用者紹介もと

平成 29 年度新規利用者 22 名（前年度 20 名）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人
1	13	5	0	3

※桜町病院主治医 9 名

5. 訪問終了者 30 名（前年度 30 名）

終了理由

死亡	入院	特養・グループホーム	有料ホーム	障害施設	他 ST へ移行	その他
8	10	2	3	0	1	6

【教育研修】

- ・東京都福祉保健局 H29.5/22 集団指導・ H29.7/21 個別指導
- ・東京有明医療大学看護部学生実習受け入れ（5/14-25.6/11-22 各 2 名）

職員研修

研修名	年月日	主催	出席者
認知症研修	H29.4/10	市地域包括委員会	當山典子
エンゼルケア	H29.4/21 H29.5/10	市訪問看護専門部会 桜町病院	福川美津子
医療倫理と患者の権利	H29.5/17	桜町病院	當山典子
手指衛生	H29.6/13.23	桜町病院	高橋、宮川、福川
認知症サポーター研修	H29.6/20、9/9	西包括支援センター 吉祥寺	高橋真由美 宮川由美子
摂食嚥下研修	H29.9/21	口腔リハクリニック	福川美津子
退院支援	H29.11/8	桜町病院	當山・福川
ストーマケア	H29.12/15	多摩総合医療センター	當山典子
訪問看護の未来創り	H30.1/27	ソフィアメディ	當山典子
新人研修	H30.1/23～ 1/30.2/14	ステーション内研修 病院連携室・きた包括・ ケアマネ研修	八木里江子
新人研修	H30.1/10～ 4/9	ステーション内研修 病院連携室研修	中村隆子

I 聖ヨハネホスピスケア研究所

【平成29年度活動状況報告】

1) ホスピスセミナー

主に一般市民、看護学生など対象に実施。 計3回実施。 参加者112名

2) 医師研修

「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)

1年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。

平成29年度はなし。

4) 音楽療法

非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法

「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

5) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「柳田邦男 いのちを語る」 講師：柳田邦男先生

(2月15日 小金井市民交流センター 大ホール) 参加者 506名

6) 学会発表・研究

平成29年度はなし。

7) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。参加者 33名

8) 「アロマセラピー」の取り組み

アロマセラピスト並びに病棟スタッフも継続不可能となり、今年度より事業は中止している。

9) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。

a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (6月 山崎所長)

参加者 14名

b) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケア」

(8月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション蛭田みどり様)

参加者 28名

c) 「どう支える 看取りまでの1週間」

(聖ヨハネホスピスと共催 1月 三枝先生) 参加者 31名

【職員】

特になし。

【施設運営状況】

特になし。

【施設整備状況】

特になし。

5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら	(高齢者賃貸住宅)
-----------------	-----------

【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え本事業をスタートし5年目を迎えた。地域包括ケアシステムを構築する過程で老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針を進めることとなった。

これまでの経験から、利用者の前住居の整理、荷物の取捨選択といったところに時間をかなり要することがわかってきた。また入居後に身体の衰えなどで特養への入所に移ってしまうケースも予想していた以上に多いということがわかった。今年度は昨年度からの入居状況に変更はなく、60%の入所率となった。

居室は全個室で5戸。現在、5名の受付ボランティアが月曜日～土曜日の10:30～16:00常駐し対応して頂いている。今後は、法人内のサービス連携（デイサービス、配食等）をより具体的に進めていきたい。

【平成29年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	平成27年度利用率
シニアハイムさくら	5室	3名	60.0%

【施設整備状況】

特になし

三 理事会

- 第 300 回 平成 29 年 6 月 5 日（月） 本館戸塚ホール
- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
- (議案) 1 平成 28 年度決算監事監査報告の承認について
2 平成 28 年度事業報告の承認について
3 平成 28 年度決算報告の承認について
4 社会福祉充実残額の承認について
5 新役員候補者の選任について
6 内部管理体制の整備に係る基本方針について
7 運営協議会委員の選任について
8 役員賠償保険の加入について
9 諸規定の制定及び改訂について
(1)定款細則
(2)経理規程
(3)運営協議会運営細則
(4)高齢福祉部門給与規程
10 施設の人事について
11 定時評議員会の招集事項の決定について
- 第 301 回 平成 29 年 6 月 21 日（水） 本館戸塚ホール
- (議案) 1 理事長の互選について
2 業務執行理事の互選について
- 第 302 回 平成 29 年 7 月 20 日（木） 本館戸塚ホール
- (議案) 1 会計監査人の報酬について
2 諸規定の制定及び改訂について
(1)個人情報保護規程
- 第 303 回 平成 29 年 9 月 26 日（火） 本館戸塚ホール
- (議題) 1 山梨地区グループホーム設立支援の進捗状況について
2 会計監査計画について
3 諸規程の制定及び改訂について
(1)経理規程
(2)桜町病院 職員給与規程
(3)高齢福祉部門 非常勤職員就業規則
(4)障害福祉部門 正規職員就業規則
(5) // 非正規職員就業規則
(6) // 非正規職員給与規程
(7) // 組織規程
(8) // 表彰・懲戒委員会規程
(9) // 慶弔見舞金規程

- (10) 〃 職員旅費規程
- (11) 〃 公益通報保護規程
- (12) 〃 母性健康管理の措置規程
- (13) 〃 育児休業規程
- (14) 〃 介護休業規程

4 内部管理体制の取り組みについて

第 304 回 平成 29 年 11 月 22 日（水） 本館戸塚ホール

- (報告) 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告について
- (議案) 1 平成 29 年度補正予算について
- 2 障害福祉部門山梨事業所管内グループホームの運営形態変更に係る名称変更について
 - 3 桜町高齢者在宅サービスセンター土地賃貸契約について
 - 4 諸規程の制定及び改訂について
 - ① 障害福祉部門 正規職員給与規程
 - ② 〃 非正規職員就業規則
 - ③ 富士聖ヨハネ学園 運営規程
 - 5 法人の顧問弁護士選任について
 - 6 基本財産の処分について（桜町地区敷地の一団地認定）
 - 7 評議員会の招集事項の決定について

第 305 回 平成 30 年 2 月 7 日（水） 本館戸塚ホール

- (議案) 1 平成 30 年度事業計画の重点項目の件
- 2 内部管理体制の取り組み進捗の件
 - 3 諸規程の制定及び改訂について
 - ① 富士吉田聖ヨハネケアビレッジ運営規程
 - ② 寿聖ヨハネ短期入所運営規程
 - ③ 高齢福祉部門正規職員給与規程
 - ④ 〃 正規職員就業規則
 - 4 評議員会の招集の件

第 306 回 平成 30 年 3 月 20 日（火） 本館戸塚ホール

- (議案) 1 平成 30 年度事業計画及び予算の承認の件
- 2 内部管理体制の構築に係る規程の整備の件
 - 3 諸規程の制定及び改訂について
 - ① 障害福祉部門 正規職員給与規程
 - ② 〃 組織規程
 - ③ 富士聖ヨハネ学園 短期入所運営規程
 - ④ 桜町病院 嘱託職員就業規則
 - ⑤ 〃 非常勤職員就業規則
 - 4 施設長等の選任の件
 - 5 小金井地区新グループホーム建設計画の件

四 評議員会

- 第91回 平成29年6月21日(水) 本館戸塚ホール
- (報告) 1 平成28年度決算監事監査報告について
2 平成28年度事業報告について
- (議案) 1 平成28年度決算の承認について
2 社会福祉充実残額の承認について
3 新役員の選任について
4 報酬等の支給の基準の承認について(役員報酬規程)
5 会計監査人の選任について
6 基本財産の名称変更について
7 定款変更認可申請について
- 第92回 平成29年12月12日(火) 本館戸塚ホール
- (議案) 1 基本財産の処分について(桜町地区敷地の一団地認定)
- 第93回 平成30年3月29日(木) 本館戸塚ホール
- (議案) 1 平成30年度事業計画の承認の件
2 平成30年度予算の承認の件

五 経営会議

平成 29 年 4 月 18 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 1 月度及び 2 月度）について
- (2) 新委員の紹介について

（議案）

- (1) 平成 28 年度決算スケジュールについて
- (2) 桜町ヨハネ祭の収益金使途報告について
- (3) 改正法に伴う所轄庁の財務分析結果について
- (4) 内部管理体制の構築について
- (5) 個人情報保護法の改正について
- (6) 食支援に関する研修等について
- (7) 備品等の購入に関する注意事項について

平成 29 年 5 月 16 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 3 月度）について
- (2) 6 月度からの本会議開催日時について

（議案）

- (1) 法人合同研修について
- (2) 個人情報保護規程について
- (3) 監事監査について
- (4) 平成 28 年度決算に関する計算書類と附属明細書の構成について
- (5) 平成 29 年度桜町ヨハネ祭の実施について
- (6) 食支援チームの立ち上げについて

平成 29 年 6 月 28 日（水）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 4 月度）について
- (2) 理事会評議員会報告

（議案）

- (1) 桜町ヨハネ祭について
- (2) 定款細則について
- (3) 内部管理体制について
- (4) 法人合同研修について
- (5) 個人情報保護規程について

平成 29 年 7 月 26 日（水）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 5 月度）について
- (2) 法人全体試算表報告

（議案）

- (1) 障害者雇用について
- (2) 富士山登山レクリエーションについて

平成 29 年 8 月 23 日（水）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 6 月度）について
- (2) 法人全体試算表報告

（議案）

- (1) 法人合同研修について
- (2) 富士山登山レクリエーション（費用）について
- (3) 9 月 26 日の理事会について
- (4) 小金井市区一団地認定に係る費用について
- (5) 桜町ヨハネ祭イベント保険について
- (6) 法人内連携のための勉強会について
- (7) 理事長及び業務執行理事の報告様式について

平成 29 年 9 月 27 日（水）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 7 月度）について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 法人合同研修アンケート結果について
- (4) 平成 29 年 9 月からの自賠責保険について
- (5) 全社協経営者大会の報告について
- (6) 桜町ヨハネ祭の会場案内について
- (7) 東京都地域公益活動推進協議会「実践報告会」について

（議案）

- (1) 法人合同研修（食支援）について
- (2) 11 月 3 日の秋レクリエーションについて
- (3) ボーリング大会について
- (4) 11 月 22 日の理事会について
- (5) 登録派遣講師申込について
- (6) 法人内連携のための勉強会について

平成 29 年 10 月 25 日（水）開催 本館戸塚ホール

（報告）

- (1) 月次報告（平成 29 年 8 月度）について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 寄付金状況報告について
- (4) 療養病床に関するアンケート結果について

(5) 登録派遣講師申請結果について

(議案)

- (1) 秋のレクリエーション費用配分について
- (2) 平成 29 年度決算スケジュールについて
- (3) ボーリング大会について
- (4) 退職共済の電子化対応について
- (5) 顧問弁護士候補について
- (6) 継続雇用の無期転換ルールについて
- (8) 法人内連携のための勉強会について (高齢)

平成 29 年 11 月 29 日 (水) 開催 本館戸塚ホール

(報告)

- (1) 月次報告 (平成 29 年 9 月度) について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 新聞記事より
- (4) 本庁住宅の敷地について
- (5) 法人レクリエーション会計報告について
- (6) 東京都指導監査の速報について
- (7) 桜町ヨハネ祭の会計報告について
- (8) みまもりあいプロジェクトの案内について

(議案)

- (1) 法人の顧問弁護士について
- (2) 法人内連携のための勉強会について (高齢)

平成 29 年 12 月 27 日 (水) 開催 本館戸塚ホール

(報告)

- (1) 月次報告 (平成 29 年 10 月度) について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 平成 30 年度 4 月の報酬改定について
- (4) 継続雇用の無期転換ルール申請について
- (5) YOKYO 働きやすい福祉の職場宣言事業所の募集について
- (6) 情報について
- (7) 人材採用セミナーについて

(議案)

- (1) ヨハネ会の地域包括ケアシステム構築について
- (2) 法人内連携のための勉強会について (障害)

平成 30 年 1 月 24 日 (水) 開催 本館戸塚ホール

(報告)

- (1) 月次報告 (平成 29 年 11 月度) について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 寄付金内訳について
- (4) 手作りパン販売について
- (5) 東京都地域公益活動推進協議会 NEW について

(6) 内部管理体制構築の進捗状況について

(8) 1月15日の停電について

(議案)

(1) 「職員採用チーム」の組成について

(2) ヨハネ会の地域包括ケアシステムの構築のための法人内連携について

平成30年2月28日(水) 開催 本館戸塚ホール

(報告)

(1) 月次報告(平成29年12月度)について

(2) 法人全体試算表報告について

(3) 法人合同研修アンケートについて

(4) 障害者雇用状況の書類準備について

(5) 平成30年度法人運営費について

(6) その他情報について

(議案)

(1) 平成30年度の桜町ヨハネ祭日程について

(2) 平成30年度入職式スケジュールについて

(3) 平成30年度事業計画/予算ヒヤリングスケジュールについて

(4) 自職場のらしさ(魅力)を発信する活動(職員採用チーム)について

(5) ヨハネ会の地域包括ケアシステムの構築のための法人内連携について

(6) その他